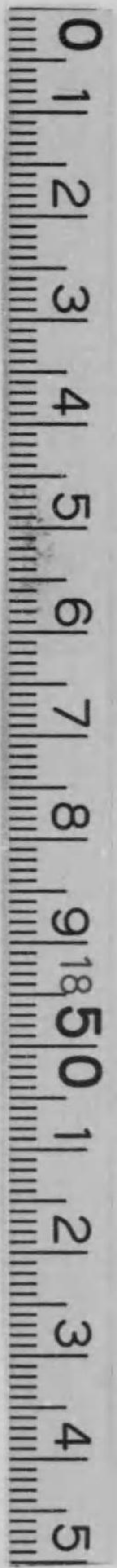


283
2



始



283

2

第二高等學校一覽

自大正十四年
至大正十五年

283-2



目次

第一章	高等學校ニ關スル法令	一
第一	高等學校令	一
第二	高等學校規程	三
第三	高等學校高等科入學資格試驗規程及官立高等學校	一
第四	高等科入學者選拔試驗規程等	一
第四	教授要目	一
第五	高等學校教員規程	四
第六	官制	五
第七	名譽教授並奏任文官及判任官文官ノ優遇	六
第七	ニ關スル勅令	六
第八	職員定員令	五
第九	學校長職務規程	五
第十	學生生徒兒童身體檢查規程及發育概評決定標準	五

大正
14. 11. 21
寄贈

第十一 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

第十二 高等學校高等科學力檢定規程

第十三 陸軍現役將校學校配屬令

第十四 外國人特別入學規程並外國人及殖民地入

學生ニ關スル件

第二章 沿革略

第三章 學 歷

第四章 學 則

第一款 學年、學期及休業

第二款 入學、在學、休學及退學

第三款 懲 戒

第四款 學科課程

第五款 試驗、進級及卒業

第六款 授業料

第七款 服 制

六二

六三

六四

六六

六九

九一

九三

九三

九三

九四

一〇五

一〇五

一〇九

一一三

一一四

第八款 寄 宿 舍

第九款 圖 書

第十款 器 械

第五章 細 則

第一款 校務分掌規程

第二款 學校醫務服務規程

第三款 教授會規程

第四款 評議員會規程

第五款 生徒總代規程

第六款 生徒通學規程

第七款 行軍規程

第八款 物品會計規程施行細則

第九款 生徒圖書閱覽細則

第十款 圖書閱覽特許規程

第十一款 圖書寄託規程

第十二款 防火警備心得

一一八

一二〇

一二四

一二七

一二七

一二七

一三八

一三九

一三九

一四〇

一四〇

一四三

一四五

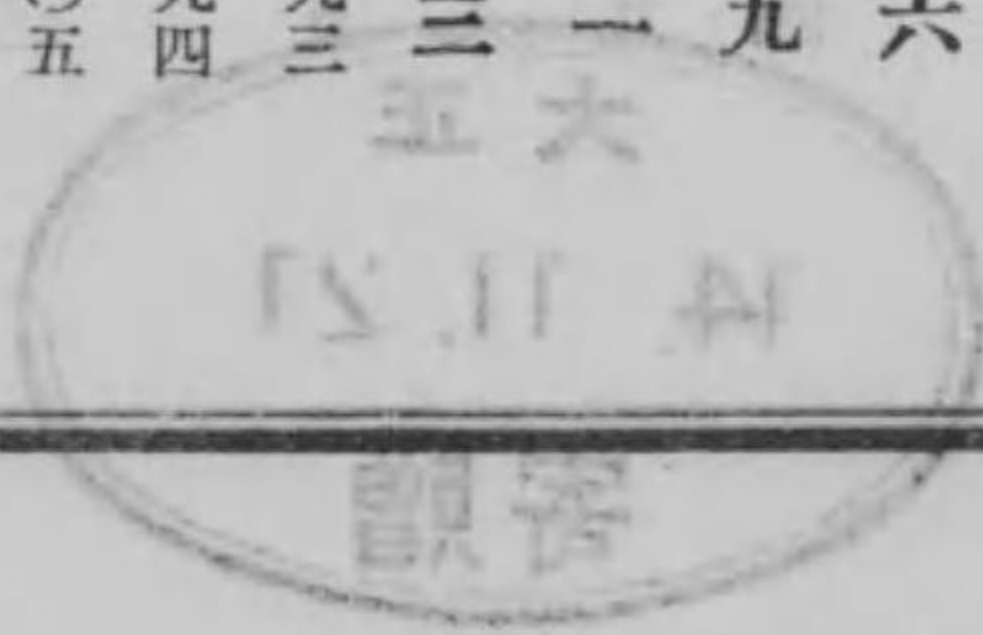
一五二

一五五

一五八

一五九

5-882



第六章	職員	一六一
第七章	生徒	一七四
第八章	卒業生氏名	二一一
第九章	敷地附屬地及建物	三五一
附表		
第一	在學生徒並ニ入學志願者入學者及卒業者科類別表	三六三
第二	生徒年齢表	三六五
第三	生徒本籍別表	三六五
第四	卒業生本籍別表 (挿表)	三七一
附錄	尙志會會則	
	敷地及建物全圖 (挿圖)	

第二高等學校一覽

第一章 高等學校ニ關スル法令 第一 高等學校令

勅令第三百八十九號 (大正七年十二月五日)

高等學校令

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニ力ムヘキモノトス
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス
- 高等學校ハ高等科ノミヲ置グコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分テ文科及理科トス
- 第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置グコトヲ得其ノ修業年限ハ一年トス
- 專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得
- 專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

高等學校令

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第七條第二項ノ高等學校ニアリテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科日ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二 高等學校規程

文部省令第八號(大正八年三月二十九日)(大正九年一月二十四日)(省令第四號ヲ以テ改正)

高等學校規程(抄)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歴史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス

外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル義務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國
民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學上ノ趣味
ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講
讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智德ノ増進ニ資
スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授ケヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、
國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授ケヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授ケヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授ケヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授ケヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法、初等解折幾何、初等

微分積分及初等力學ヲ授ケヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授ケヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之ヲ應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ
力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之ヲ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ
以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課ス

ヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス
法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		六	五	五
第一外國語		九	八	八
第二外國語		(四)	(四)	(四)
歷史		三	五	四

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
地 理		二		
哲 學 概 說				三
心 理 及 論 理			二	二
法 制 及 經 濟			二	二
數 學		三		
自 然 科 學		二	三	
體 操		三	三	三
計		(三九)	(三九)	(三九)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一一	一〇	一〇
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		(三四)	(三四)	(三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身		一	一	一
國語及漢文		四	二	
第一外國語		八	六	六
第二外國語		(四)	(四)	(四)
數學		四	四	(二)四
物理學			三	三
化學			三	三
植物及動物		二	二	(實講) 二二 驗義 二四
礦物及地質		二		
心理學			二	
法制及經濟		二		
圖畫		二	二	(二)

體操	三	三	三
計	二二八	二二八	二二八

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		一〇	一二	一二

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ
國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、論理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、

化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ旨趣ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上、高等科ニ在リテハ每學年二百日以上、専攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、機械室、標本室等ヲ備フヘシ
校舍ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一 學則、日課表及教科用圖書配當表
- 二 職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表
- 三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表簿及入學延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類
- 四 試驗問題、答案及成績表
- 五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

三 專門學校入學者檢定規定ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試驗ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ試驗ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試驗檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノニ限り入學セシムヘシ

但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス
第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタルモノト同等以上ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試驗ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル者ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試驗ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試驗ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ、專攻科ヲ卒リタルモノニハ得業證書ヲ尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受ケヘシ

第五十六條 學校長ノ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 雜則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 學年、學期及休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料ニ關スル事項

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三 高等學校高等科入學資格試驗規程及官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程等

文部省令第九號(大正八年三月二十九日)

高等學校高等科入學資格試驗規程

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全品行方正且現ニ中學校ニ在學セサルモノタルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マデノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試驗ノ問題答案成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試驗ニ付試驗手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

文部省令第十四號(大正八年) (大正十年十一月二十六日) (文部省令第四十五號ヲ以テ改正)

官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選拔試驗ニ關スル細目及出願ノ手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス但シ外國語ハ英語獨語及佛語ノ中人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

前項ノ試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選拔試驗ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

- 文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ

選拔試驗ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類ニ箇以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限り佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科丙類又ハ理科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其ノ科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試驗ノ成績順ニ依リ選出ス
- 二 前號ノ場合ニ於テ試驗成績相同シトキハ抽籤ニ依ル
- 三 前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試驗ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス
- 四 前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス

五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ナ生シタルトキハ入學スル事ヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

文部省令第十八號(明治三十八年) (十月二十八日)

高等學校高等科入學資格試驗規程等

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

第四 教授要目

文部省訓令第一號(大正十一年三月二十四日)

自然科學教授要目

第一學年(生物及地質)(約六十時間)

- 一 自然科學ノ意義
- 二 生物ト無生物、動物ト植物
- 三 生物ノ起原
- 四 生物體ノ構造(細胞、組織、器官、器官系)、生物ノ高等下等
- 五 生物分類學ノ概念
- 六 生理作用一般(營養、呼吸、排泄、酵素、毒素、反毒素、免疫、內分泌、刺戟、趨向性等)
- 七 生殖作用(生殖細胞、無性生殖、有性生殖、性ノ決定)、雌雄ノ分化
- 八 生物ノ個體發生及成熟期
- 九 生物ノ壽命ト死

- 一〇 變異及遺傳(遺傳現象、純系及雜系、實驗遺傳學、遺傳法則、遺傳物質ト細胞)
- 一一 品種改良、優生學
- 一二 生物ト環境(生物相互ノ關係、生物ノ生態的及地理的分布)
- 一三 生物ノ進化及進化説
- 一四 動物ノ智能ノ發達
- 一五 人類ノ起原及發達
- 一六 人類ト他ノ生物トノ關係
- 一七 太陽系及其ノ一員トシテノ地球、太陽系生成ニ關スル學説
- 一八 地球ノ現今ノ狀態(氣圈、水圈、岩石圈、重圈)、重圈ニ關スル學説
- 一九 地殼ノ構造(水成岩、火成岩、變成岩ノ成因、特性及現出狀態、主ナル岩石ノ實例、岩漿分化ノ現象)
- 二〇 地殼ノ變動(內因的及外因的的地質作用)
- 二一 地史學概論(前かむぶり時代、附あるこんき時代ノ生物、古生代、中生代及新生代ト各時代ノ生物)
- 二二 人類ト動物界トノ關係
- 二三 概 括

備考

本要目ハ自然科學ノ教授上主トシテ準據スヘキ生物及地質ニ關スル主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ

但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス殊ニ本要目ニハ生物ニ關スル事項ト地質ニ關スル事項トハ其ノ授業擔任者ヲ異ニスル場合ヲ考慮シ地質ニ關スル教材ヲ終リニ纏メテ配置シタレトモ同一教員ニテ全部ヲ受持ツ場合ニハ地質ニ關スル教材ヲ其ノ生物ニ關スル教材トノ關係ヲ參酌シテ適宜分配シ教材排列順ノ統一ヲ圖ルモ可ナリ

第二學年(物理及化學)(約九十時間)

物理

- 一 自然科學ニ於ケル物理學ノ位置
- 二 物理學ノ分類ト其ノ概要
- 三 定律ト假說
- 四 ニュートンノ運動ノ定律並其ノ論據
- 五 萬有引力ノ定律並其ノ論據
- 六 時間及時刻
- 七 天體現象
- 八 えんるぎ
- 九 熱力學ノ大要
- 一〇 分子運動說
- 一一 波動

- 一二 光學ノ大要(反射、屈折、光ノ速度、干涉、偏光、すへくさる、輻射、吸收、廻折等)
- 一三 磁氣及靜電氣
- 一四 電流(抵抗、熱作用、磁氣作用、機械的作用、電磁感應、直流並交流等)
- 一五 電氣振動、電磁波
- 一六 光ノ理論ノ變遷
- 一七 氣體ノ電氣傳導、真空放電(陰極線、X線等)
- 一八 電子論
- 一九 放射能
- 二〇 量子論
- 二一 自然ノ連續性及不連續性
- 二二 自然界ニ於ケル週期性
- 二三 自然現象ノ可逆及不可逆
- 二四 相對論

化學

- 一 自然科學ニ於ケル化學ノ位置
- 二 物質ノ純非

- 三 元素ト化合物、化學量論ノ諸定律
- 四 分子說原子說其ノ論據
- 五 化學記號、化學方程式、原子價、構造式
- 六 炭素ノ化學
- 七 熱化學(反應熱、發熱反應、吸熱反應等)
- 八 可逆反應ト不可逆反應、化學平衡
- 九 活動量ノ定律、フアントフ及ルシヤテリエノ原理
- 一〇 反應速度論、觸媒
- 一一 主ナル金屬ノ化學
- 一二 合金
- 一三 溶液、滲透壓
- 一四 電氣化學(電解傳導、電池等)
- 一五 分析化學ノ大要
- 一六 膠質化學
- 一七 大氣
- 一八 燃燒、燃料

- 一九 化學工業ノ原料ト製品
- 二〇 油脂、炭水化合物、醱酵
- 二一 蛋白質、營養品、嗜好品
- 二二 飲料水、用水
- 二三 呼吸及消化ノ化學

備考

- 一 此ノ要目ハ自然科學ノ教授上主トシテ準據スヘキ物理及化學ニ關スル主ナル教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス
- 二 物理ト化學トノ授業時數ハ略同一トシ適宜増減スルヲ得ルモノトス
- 三 此ノ要目ハ現行中學校教授要目ニ據リ第四學年ヲ修了シタル者ヲ標準トシテ作成セリ

文部省訓令第二號(大正十二年二月八日)

文科數學教授要目

第一學年(約九十時間)

- 一 幾何及代數ノ補充
- 平面及直線、多面體、球、錐、圓錐、球
- 指數及對數、順列及組合、二項定理、確率

- 二 三角法
 - 三角ノ測り方、三角函數、三角形ノ性質、逆三角函數
 - 三 平面解析幾何
 - 坐標、軌跡方程式、直線、圓、橢圓、雙曲線、拋物線ノ主ナル性質
 - 四 微分積分
 - 函數ト其ノぐらふ、極限值、連續、微分法、積分法
 - 微分法ノ應用(函數ノ値ノ増減及極大極小、曲線ノ切線及凸凹等)
 - 積分法ノ應用(面積、曲線ノ長サ、體積等)
- 備考
- 一 此ノ要目ハ教授上主トシテ準備スヘキ教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ其ノ選擇排列ニ就キテハ多少ノ酌ナ爲スナ妨ケス
 - 二 必要ニシテ充分ナル條件、歸納法等ハ適宜ノ場所ニ於テ之ヲ教授スルモノトス
 - 三 講義ノ進行ニ從ヒ時々練習問題ヲ課スルコトヲ要ス

哲學概説教授要目

第三學年(約九十時間)

教授方針

主要ナル哲學問題發生ノ理路ヲ説明シ、之ニ關スル顯著ナル諸說ヲ舉示日批評シ哲學上重要ナル基礎概念ヲ與ヘ、學語ノ明確ナル意味ヲ知ラシムルヲ主トスルコト但シ現代ノ哲學及一般學術並文化ニ關係アル點ニ重キヲ置クコト

- 教授要目
- 一 哲學概念
 - 二 哲學ト科學
 - 三 哲學ト宗教
 - 四 哲學ト藝術
 - 五 研究法一般ノ問題
 - 六 辨證的方法
 - 七 直觀的方法
 - 八 先驗的方法
 - 九 獨斷論、懷疑論、批判論等
 - 一〇 實在ノ問題(形而上學一般)
 - 一一 一元論、二元論、多元論等
 - 一二 唯物論唯心論等
 - 一三 機械觀目的觀等
 - 一四 智識ノ問題(認識論一般)
-
- 一五 唯理論、經驗論、實證論等
 - 一六 實在論、觀念論等
 - 一七 絕對論、相對論等
 - 一八 論理主義、心理主義等
 - 一九 主知說、主意說等
 - 二〇 人生ノ問題(文化哲學一般)
 - 二一 人生觀(樂天觀、厭世觀等)
 - 二二 自由論、必然論等
 - 二三 道德ニ關スル諸哲學說
 - 二四 宗教ニ關スル諸哲學說
 - 二五 藝術ニ關スル諸哲學說
 - 二六 歷史、法律等ニ關スル諸哲學說
 - 二七 孔子及先秦諸子ノ學
 - 二八 漢唐宋明ノ學

- 一 日本ノ儒教
- 二 印度古代ノ哲學及宗教
- 三 印度ノ佛教
- 四 支那ノ佛教
- 五 日本ノ佛教
- 六 希臘哲學

- 七 基督教及中世哲學
- 八 カント以前ノ近世哲學
- 九 カント哲學
- 十 カント以後ノ獨逸哲學
- 十一 十九世紀ノ英佛哲學
- 十二 現代ノ哲學

備考

- 一 本要目ハ哲學概説ノ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ舉ケタルモノニシテ其ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス
- 二 要目中他ノ學科ト重複スルモノ(例ヘハ道德ニ關スル諸哲學説ノ如キ)ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 三 歴史的敘述ハ成ルヘク簡單ナルヲ要ス且必スシモ體系論述ト分離シテ之ヲ説クヲ要セス
- 四 要目中ニ掲ケサル學説及學語ニシテ重要ナルモノハ適當ナル場所ニ於テ之ヲ説明スルヲ要ス

文部省訓令第二號(大正十三年三月二十八日)

國語及漢文教授要目

國語
文科

國語教授ナ左ノ四部ニ分ツ

講讀 文法 作文 文學史

講讀

講讀ニ於テハ解釋鑑賞批評ノ三態度ヲ取ルヘシ

解釋

語句文章ノ意義思想ヲ正確ニ理解セシメ感情氣分ノ把握ニ注意セシムヘシ

國民性及國民精神ヲ理解セシムルト共ニ人性ノ風ヲ會得セシムヘシ

鑑賞

文章創作ノ心理ニ透入スルコトニ注意セシメ文章樣式ノ時代的特色ト共ニ作家ノ個人的特徴ヲモ正確ニ理解セシメテ各作家各文章ノ有スル特殊ナル美ヲ識別玩味スル美感ノ養成ニ力メシムヘシ

批評

批評ハ美學的修辭學的文法的ナルヲ主トスヘシト雖兼テ諸般ノ思想知識感情ニ就キテ穩健ナル指導ヲ爲スヘシ

ヘシ

第一學年ニ於テハ主トシテ近古文(例ヘハ保元物語、平治物語、平家物語、太平記、增鏡、徒然草、新古今和歌集、山家集、金槐集、謠曲、狂言等) 第二學年ニ於テハ主トシテ中古文(例ヘハ源氏物語、枕草紙、大鏡、落窪物語、古今和歌集等) 第三學年ニ於テハ主トシテ上古文(例ヘハ古事記、源詞、宣命、紀紀ノ歌、萬

葉集等)ヲ課シ近世文(例ハ奥ノ細道、鶴衣、雨月物語、春雨物語、西鶴、馬琴等ノ文、俳句、淨瑠璃、擬古文等)ハ難易ニ從ヒテ適當ナル學年ニ之ヲ課ス又隨時現代文(代表作家ノ文)ヲ課シテ作文力ノ養成ニ資スルコトアルヘシ

教科書ハ全本ヲ用フルヲ可ナリトスレトモ便宜抄本又ハ編纂物ヲ用フルヲ妨ケス

文法

既得ノ文法ノ知識ヲ整理シ國語學一般及各時代ノ語法ノ特徵ヲ授ケ現代文語法並ニ口語法ノ應用ニ習熟セシムヘシ

作文

口語體並ニ文語體ニ習熟セシムヘシ

少クトモ一箇月一回之ヲ課シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル修辭學上ノ知識ヲ授ケヘシ

語句ノ推敲構想ノ整齊修辭ノ妥當ニ注意セシメ又内容ニ應ジテ文ノ姿致ヲ變化セシムル工夫ヲ積マシムヘシ

添削ヨリモ批評ヲ重シ常ニ個性ノ發揮ヲ誘導シ好ンテ文章ヲ綴ルノ習慣ヲ得シムヘシ

文學史

文學書ノ解題文學者ノ傳記文例等ハ之ヲ適當ナル參考書ニ依リテ授ケ講義ハ文學ノ史的展開及文學ニ現レタル國民思想ノ主流ヲ説述シ作品及作家ノ評論ヲ爲スヘシ

時間數及其ノ配當ハ左ノ如シ

第一學年 每週三時間 講讀二時間 文法一時間

第二學年 每週三時間 講讀二時間 文學史一時間

第三學年 每週三時間 講讀二時間 文學史一時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

理科

國語教授ヲ左ノ二部ニ分ツ

講讀 作文

講讀

教科書ハ文科ニ準シ講讀ト併セテ國民思想ノ發達文學ノ史的展開ヲ説述スヘシ
解釋ハ略文科ニ準スト雖語句ノ解釋ニ偏セス全文ノ理解ヲ重ンスヘシ
鑑賞批評ノ指導ハ適宜ニ之ヲ爲スヘシ

作文

文科ニ準ス但シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル文法ノ知識ヲ授ケヘシ
時間數ハ左ノ如シ

第一學年 每週二時間 講讀二時間

第二學年 每週二時間 講讀二時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

漢文

教授方針

高等學校規程第六條ノ要旨ニ基ツキ特ニ道義的觀念文學的趣味ヲ涵養スルニ足ルヘキ教材ニ依リ生徒ヲシテ讀書作文力ヲ養ヒ兼テ東洋道德思想ノ淵源ヲ知ラシメンコトヲ力ムヘシ
講讀ニ於テハ語句ノ意義ヲ解釋シ文章ノ要旨ヲ明カニシ且其ノ形式ノ時代的特色ヲ説明シ場合ニ依リヤハ作家ノ個人的特徴ヲモ示シ尙思想ニ關シテ適切ナル批判ヲ下スヘシ

教授時數

文科

第一學年 每週三時間

第二學年 每週二時間

第三學年 每週二時間

理科

第一學年 每週二時間

教材

文科

第一學年

四書 史記 漢書 資治通鑑等ノ類

支那歷代名家ノ詩文

第二學年

四書 春秋左氏傳 戰國策 荀子 韓非子等ノ類

支那歷代名家ノ詩文

第三學年

尙書 禮記 莊子 墨子 孫子等ノ類

哲學思想ニ關スル漢唐以後ノ主要ナル著作

支那歷代名家ノ詩文

理科

第一學年

文科第一學年ニ準ス

第二學年(配當時數アルトキ)

文科第二學年ニ準ス

備考

- 一 前記教材ノ選擇排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スコトヲ妨ケス
 - 二 時文小説等ノ類ハ隨時之ヲ附課スルコトヲ得
 - 三 文學史及文法ニ關スル事項ハ教材ニ就キテ隨時之ヲ教授スルモノトス
 - 四 教材ニハ句讀ヲ施シ返點ヲ附セサルナ原則トス
- 國語漢文ノ配當時數ハ教授上ノ都合ニ依リテ多少ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得

圖畫教授要目

第一學年(約六十時間)

自在畫

鉛筆畫、木炭畫、水彩畫等

幾何畫

一 概説

製圖ニ關スル一般ノ注意

製圖用器具ノ檢査、修理及使用法

尺度(普通尺、斜線尺、遊尺等)

二 平面幾何畫

圓錐曲線

高等曲線

第二學年(約六十時間)

三 立體幾何畫

正投影圖

點、線、平面、平面圖形、立體、曲面、切面、截斷、展開、相貫體

第三學年(約六十時間)

正投影圖

陰影

附 等角投影圖、平面投影圖

斜投影圖

透視圖

備考

一 此ノ要目ノ外計算尺使用法、圖式計算法、工學製圖ヲ課スルコトヲ得

二 此ノ要目ニ舉ケタル教材ノ取捨排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ加フルコトヲ得

三 第一學年ノ自在畫ト幾何畫トノ授業日數ハ略同一トス但シ事情ニ依リ増減スルコトヲ得

文部省訓令第二號(大正十四年三月二十日)

歴史教授要目

日本史

第二學年(約九十時間)

緒論

上世

- 一 日本民族ト其ノ國家ノ成立
- 二 皇室中心ノ氏族制度
- 三 支那文化ノ傳來 歸化人
- 四 佛敎ノ傳來 敬神崇佛ト神佛混合
- 五 國家思想ノ發達ト大化ノ改新 國史律令ノ撰修
- 六 奈良朝ノ政治及佛敎 文學及美術工藝
- 七 平安朝初期ノ政治外交
- 八 攝關政治 院政
- 九 平安朝ノ 敎 假名國文ノ發達 美術工藝 淨土信仰ト庶民藝術
- 一〇 莊園ト武士ト源平二氏ノ興亡

中世

- 一一 鎌倉幕府ノ成立 守護地頭 武士道 貞永式目
- 一二 朝廷ト幕府トノ關係
- 一三 元ノ來寇ト我逆襲計畫 國民自覺 幕府財政ノ破綻
- 一四 佛敎ノ新宗派
- 一五 鎌倉時代ノ文學及美術工藝
- 一六 建武中興ト公武ノ抗爭
- 一七 室町幕府ノ組織 政治上社會上ノ缺陷
- 一八 支那及朝鮮トノ交通
- 一九 室町時代ノ文學及美術工藝 能樂 茶道
- 二〇 諸大名ノ分裂ト社會組織ノ解體
- 二一 西洋諸國人ノ渡來 天主教ノ弘通 西洋文化ノ傳播
- 二二 都市ノ發達 國民ノ對外活動
- 二三 皇室ト國民トノ接近
- 二四 織田・豐臣二氏ノ統一事業 美術工藝
- 二五 江戸幕府ノ成立 社會組織ノ整頓

近世

- 二六 鎖國ノ由來ト其ノ影響
 - 二七 學問ノ勃興ト其ノ傾向
 - 二八 元祿時代ノ經濟及世相 町人文學 美術工藝
 - 二九 商工業ノ發達
 - 三〇 正徳ノ政治 享保ノ改革
 - 三一 寛政ノ改革 諸藩ノ治 天保ノ改革
 - 三二 國史ノ編纂 國學ノ獨立
 - 三三 尊皇思想ノ勃興
 - 三四 洋學ノ研究
 - 三五 文化・文政時代ノ文學美術工藝
 - 三六 歐米ノ極東經略ト我對策
 - 三七 政局ノ變轉ト國論ノ沸騰 江戸幕府ノ瓦解
- 現代
- 三八 明治維新 國是ノ確立 政治的社會的變革
 - 三九 立憲思想ノ發達 立憲政體ノ確立
 - 四〇 條約改正 法典制定 國權ノ恢復

- 四一 東洋ノ平和ト我國策ノ實現 日清戰役 日露戰役
- 四二 日英同盟 日韓併合
- 四三 實業ノ發達
- 四四 政黨政治ノ進歩
- 四五 明治・大正時代ノ思想
- 四六 明治・大正時代ノ科學・文學及美術
- 四七 世界大戰後ノ帝國ノ地位

備考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘク殊ニ現代ハ中學校ニ於テ修得ノ機ナカリシ生徒多數ヲ占ムヘキヲ以テ最モ詳説ニ力メンコトヲ要ス然レトモ古代ヨリ現代ニ至ルマテ史的發展ノ連續的ナルコトヲ史實ニ依リテ證明スヘシ
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ我國ノ地理的位置・時代別・資料等ニ就キテ説明スヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 東洋史・西洋史ト交渉アル事蹟ハ日本史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重複ヲ避クヘシ
- 五 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二學年(約九十時間)

緒論

上古

一 唐虞・夏・殷及西周

二 春秋戰國時代

三 周末ノ學術

中古

四 秦ノ始皇帝ノ統一

五 西漢ノ初世 武帝ノ內治

六 西漢時代ノ外國經略

イ 南越トノ關係

ロ 匈奴トノ關係

ハ 朝鮮トノ關係

ニ 西域トノ關係

七 西漢ノ衰微 東漢ノ興起

八 東漢ノ塞外經略

イ 匈奴トノ關係

ロ 西域トノ關係

九 佛教ノ東漸

一〇 漢代ノ學術

一一 東漢ノ末世 三國ノ鼎立

一二 西晉ノ興亡 五胡

一三 晉ノ南渡 南方ノ開發

一四 南北朝ノ對立

一五 南北朝時代ノ宗教學藝

一六 隋ノ統一 唐ノ初世

一七 唐ノ外國經略

イ 高句麗・新羅・百濟及日本トノ關係

ロ 吐蕃・印度トノ關係

ハ 突厥・回鶻トノ關係

ニ 中央亞細亞經略

ホ 波斯・大食トノ關係

一八 武韋ノ内亂 玄宗ノ中興

一九 安史ノ亂

二〇 唐ノ衰微

二一 唐代ノ制度學藝宗教

近古

二二 五代 契丹ノ興起 渤海ノ興亡

二三 宋ノ統一

二四 宋遼ノ交渉 西夏ノ興起

二五 宋ノ神宗ノ改革 新舊兩黨ノ爭

二六 女眞ノ興起 遼ノ滅亡

二七 宋ノ南渡 宋金ノ交渉

二八 宋代ノ宗教學藝 南海ノ通商

二九 蒙古ノ興起

三〇 成吉思汗ノ西征

三一 西夏及金ノ滅亡

三二 拔都及旭烈兀ノ西征 蒙古諸汗國ノ成立

三三 宋ノ滅亡 元ト高麗・日本及南海諸國トノ關係

三四 元ノ極盛

三五 東西ノ交通 西域人ノ支那内地移住

三六 元ノ衰滅

三七 明ノ初世

三八 蒙古諸汗國ノ盛衰 帖木兒王朝ノ興亡

三九 明ノ中世

四〇 北虜南倭 朝鮮ノ役 明ノ衰微

四一 元明時代ノ學藝

近世

四二 歐人ノ東漸 葡・西・蘭・英諸國ノ東洋通商

四三 天主教徒ノ東亞布教

四四 清ノ興起 清ト朝鮮トノ關係 明ノ滅亡

四五 清ノ聖祖・高宗ノ武功及文治

四六 清代ノ學藝 天主教徒ノ事業

- 四七 莫臥兒帝國 英人ノ印度征服
- 四八 阿片戰役 長髮賊ノ亂 英佛聯合軍ノ北京進撃
- 四九 露西亞ノ亞細亞侵略 清露ノ關係 英露ノ關係
- 五〇 佛蘭西ノ印度支那侵略 清佛戰役
- 現代
- 五一 日清戰役 歐洲諸強國ノ清國壓迫 戊戌ノ變 義和團ノ亂
- 五二 日露戰役 日英同盟
- 五三 清ノ滅亡 中華民國ノ成立
- 五四 民國成立後ノ支那
- 五五 日本ト民國トノ關係
- 五六 東亞ノ現状

備考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘキモ古代ノ學說制度等ニシテ後世ニ深キ影響ヲ及ボシシモノハ特ニ詳説スルヲ要ス
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ東洋史ノ定義及範圍、東洋史上ノ民族、東洋史ノ時代別等ノ如キ豫備知識ヲ授クヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

- 四 支那以外ノ諸邦國諸民族ノ沿革興亡ニシテ教授ヲ要スルモノハ成ルヘク關係アル適宜ノ場所ニ附説シテ(例ヘハ印度古代ノ事蹟ハ佛教ノ東漸ノ章ニ、古朝鮮ノ事蹟ハ西漢ノ外國經略ノ章ニ附説スルカ如ク)聯絡ヲ保ツニ注意スルコトヲ要ス
- 五 東西ノ交通彼此文化ノ影響ニ注意スルヲ要ス
- 六 外族カ支那ヲ支配セシ時代ニハ其ノ外族ノ對漢族政策ニ注意スルヲ要ス
- 七 日本史、西洋史ト交渉アル事蹟ハ東洋史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重複ヲ避クヘシ
- 八 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

西 洋 史

第二學年(約六十時間)

緒論

上 古

- 一 太古東方諸國ノ興亡及其ノ文化史的意義
- 二 希臘民族ノ興起 都市國家 スパルタ アテネ
- 三 波斯戰役 アテネノ民主政治
- 四 希臘文化ノ發展及其ノ後世ニ及ボセル影響

- 五 希臘諸國ノ爭覇 マケドニアノ勃興
- 六 アレクサンドル大王 ヘレニズム
- 七 羅馬ノ興起 其ノ共和政治 伊太利征服
- 八 羅馬ノ地中海沿岸征服 政治上及社會上ノ變動
- 九 武將ノ專權 帝政ノ成立
- 一〇 羅馬帝國内外ノ情勢
- 一一 羅馬ノ文化 其ノ希臘文化トノ關係 羅馬ノ世界史的使命
- 一二 基督教ノ起原 其ノ傳播 正教會ノ成立

中古

- 一三 ゲルマニヤ諸民族ノ大移動 上古文化ノ荒廢
- 一四 東羅馬帝國ノ盛衰 希臘・羅馬兩教會ノ分離 ビザンツ文化
- 一五 サラセンノ勃興 回教及其ノ文化 基督教世界ト回教世界トノ對抗
- 一六 フランク王国ノ興隆 羅馬法皇トノ結託
- 一七 チャールルス大帝ノ事業 其ノ帝國ノ分裂
- 一八 ノルマンノ活躍ト其ノ建設セル諸國 マジヤールノ侵入
- 一九 神聖羅馬帝國ノ成立 俗權ト教權トノ衝突

- 二〇 封建制度ノ成立 封建時代ノ社會及經濟狀態
 - 二一 十字軍都市ノ興起 人智ノ開發
 - 二二 皇帝及法皇ノ勢力失墜
 - 二三 近代國家ノ成立
 - 二四 蒙古ノ西侵 土耳其ノ勃興
 - 二五 ヒューマニズムノ發生 文藝ノ復興
 - 二六 地理上ノ發見 葡西兩國ノ活躍 歐洲經濟狀態ノ變化
- 第三學年(約百二十時間)

近古

- 二七 獨逸及其ノ他諸國ノ宗教改革 其ノ反動
- 二八 西歐諸國ニ於ケル宗教及政治上ノ紛争 和蘭ノ獨立
- 二九 三十年戰役及其ノ影響
- 三〇 專制主義ノ勃興 イングランドノ革命ト民權ノ發達
- 三一 佛蘭西ノ專制政治ト外國侵略 西班牙繼承戰役
- 三二 佛蘭西文化ノ隆盛及其ノ影響
- 三三 海上權ノ推移トマーカンチリズム

- 三四 露西亞ノ興隆 北方戰役 露西亞ノ東侵 波蘭ノ分割
- 三五 普魯西ノ興起 其ノ軍國的政治 奧太利繼承戰役 七年戰役
- 三六 英佛ノ對抗ト植民地戰役
- 三七 英吉利ノ對植民地政策 北米合衆國ノ獨立
- 三八 啓蒙思想ノ興隆 新學說ノ流行 科學ノ進步
- 近世
- 三九 佛蘭西大革命 革命政府ノ對外關係
- 四〇 ナポレオンノ偉業 解放戰役 ウイーン會議
- 四一 神聖同盟 反動政治ノ全盛
- 四二 民族主義及自由主義 ロマンチズム
- 四三 希臘及ラテン・アメリカ諸國ノ獨立 モンロー主義
- 四四 産業革命 プルジョアノ優勢 社會主義ノ發生
- 四五 七月革命 白耳義ノ獨立 英吉利憲法政治ノ改革
- 四六 二月革命 佛蘭西ノ第二共和政治 歐洲諸國ノ民族の動亂
- 四七 佛蘭西ノ第二帝政 クリミヤ戰役
- 四八 伊太利ノ民族の統一 法皇ト伊太利政府

- 四九 普墾ノ爭霸 獨佛戰役 獨逸ノ民族の統一
- 五〇 十九世紀ノ文化
- 五一 唯物的傾向 科學ノ大進歩 文藝ノ寫實的傾向 世界交通ノ擴大
- 五二 北米合衆國ノ内情 南北戰役 戰役後ノ發展
- 五三 統一後獨逸ノ内政
- 文化闘争 獨逸社會民主黨 ビスマルクノ經濟・政策社會政策及植民政策
- 佛蘭西ノ復興
- 五四 露西亞ノ内情 共產黨ノ亂 諸黨派ノ抗争 第三共和政治ノ確立 植民政策 政教分離
- 農奴解放 虛無黨 革命運動 議會開設
- 五五 英吉利ノ國情 自由貿易 愛蘭問題 帝國統合策
- 五六 北米合衆國ノ帝國主義 資本主義的飛躍 米西戰役 パナマ運河開鑿 米墨關係
- 五七 列強ノ世界政策
- イ 亞細亞ニ於ケル列國ノ經營

- ロ 阿弗利加ニ於ケル列國ノ經營
- 英吉利ノ埃及經營 南阿戰役 獨・佛・白等ノ經營
- ハ 太平洋ニ於ケル列國ノ經營
- 英吉利ノ大洋洲拓殖 北米合衆國ノ布哇併合及フイリツピン獲得 獨佛ノ大洋洲諸島獲得
- 五八 バルカン諸民族ノ獨立運動 露土戰役 伯林會議
- 五九 獨佛戰役後ノ歐洲國際關係
- 獨奧同盟 三國同盟 露佛同盟 英佛協商 英露協商
- 現代
- 六〇 世界大戰勃發前歐洲ノ形勢
- イ 三國同盟ト三國協商 英獨ノ對抗 モロッコ問題
- ロ 伯林會議後ノバルカン 希土戰役 土耳其ノ革命 バルカンニ於ケル露・獨・奧勢力ノ衝突 伊土戰役 バルカン戰役
- 六一 世界大戰ノ勃發 其ノ經過 北米合衆國ノ參戰
- 六二 露西亞ノ革命ト單獨講和 獨奧ノ革命ト休戰
- 六三 巴里講和會議 ヴェルサイユ條約 其ノ他ノ諸條約
- 六四 大戰後ノ世界

歐洲形勢ノ激變 民族自決主義 諸新國ノ興起 國際聯盟 勞農政治 露西亞ト波蘭 英佛ノ對獨方針
 上シレシヤ問題 華盛頓會議 希土戰役 近東處分ノ改定 獨逸賠償問題 英吉利憲法政治ノ變化 戰
 後諸國ノ國情

六五 最近ノ文化及風潮

- イ 最近ニ於ケル科學ノ應用、交通通信機關ノ進歩及普及
- ロ 民主的傾向 勞働運動 婦人運動 平和主義 人類協調精神ト民族發展精神

備考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘキモ古代ヨリ現代ニ至ルマテ史的發展ノ連續的ナルコトヲ史實ニ依リテ證明スヘシ
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ世界史上ニ於ケル西洋史ノ位置、先史時代及有史時代ノ意義、西洋史上ノ民族、西洋史ノ時代別等ニ就キテ説明スヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 日本史、東洋史ト交渉アル事蹟ハ西洋史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重複ヲ避クヘシ
- 五 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五 高等學校教員規程

文部省令第十號 (大正八年三月二十九日) (大正八年十二月四日省令第四十號大正九年五月七日文部省令第十三號大正十年七月七日文部省令第三十三號同年九月十三日) (日本文部省令第三十九號ヲ以テ改正)

高等學校教員規程

- 第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス
 - 第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規程ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ
 - 第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ効力ヲ有ス
 - 第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ
 - 第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修 身	國 語	漢 文	英 語
佛 語	獨 語	日本史及東洋史	西洋史
地 理	哲學概說	心理及論理	法制及經濟
數 學	物 理	化 學	植 物
動 物	地質及礦物	圖 畫	
- 前項ノ學科目ニ就キ試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目

ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試驗スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試驗檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試驗ニ附隨シ其ノ教授法ヲ試驗スルモノトス

第七條 試驗檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試驗檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若クハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫

二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試驗檢定ヲ受ケルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

- 三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二年ノモノヲ除ク
 - 四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者
 - 五 高等學校、大學豫科又ハ學習院高等科及元高等學科ヲ卒業シタル者
 - 六 當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者
 - 七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
 - 八 外國ニ於テ大學若クハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若クハ卒業證書ヲ有スルモノ
 - 九 五年以上大學、大學豫科、高等學校、專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者
- 前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス
- 第十條 第九條第一號第二號及第九號ニ該當スル者、高等師範學校專攻科又ハ東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者及本邦ニ於テ高等學校若クハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若クハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得
- 第十一條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス
- 第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス

公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科日本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限り高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限り第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教官タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス(書式略ス)

第六官 制

勅令第八十六號(明治二十六年) 明治二十九年五月ヨリ大正(八月二十四日) 十二年三月マテ數次改正

文部省直轄諸學校官制(抄)

一 文部省直轄學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 教授
- 生徒監
- 助教
- 書記

一 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

一 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

一 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

一 生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

一 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス

一 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得カル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ

特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

一 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設ケルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

第七 名譽教授並奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル勅令

勅令第二百二十四號 大正三年 六月十九日

文部省直轄諸學校ノ教育ニ付功勞顯著ナル者ニハ文部大臣ノ奏請ニ依リ名譽教授ノ名稱ヲ與フルコトヲ得

勅令第二百五十二號 大正四年 八月九日

帝國大學名譽教授及文部省直轄學校名譽教授ハ勅任官ヲ以テ待遇ス

勅令第二百二十三號 大正十年 五月二十一日 (抄)

第一條 高等官官等俸給令別表第二表第一號、第三表及第五表ニ依ル奏任文官ニシテ引續キ五年以上高等官三等ニ在職シ功績顯著ナル者ハ特ニ之ヲ勅任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

第一條 判任文官ニシテ引續キ五年以上一級俸ヲ受ケテ在職シ事務練熟優等ナル者ハ特ニ之ヲ奏任官ノ待遇ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ高等官六等以下トス

第一項ノ規定ニ依リ奏任官ノ待遇ヲ受クル者ハ之ヲ主事ト稱ス

第八 職員定員令

勅令第九十九號

明治三十五年(明治四十年六月ヨリ大正十年五月マテ數次改正)

文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

第二	高等	學校	一	校長	一	教授	三十六	人	助教授	五	人	書記	七	人
----	----	----	---	----	---	----	-----	---	-----	---	---	----	---	---

勅令第九十六號 明治二十六年(抄)

文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル件

文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

第九 學校長職務規程

直轄諸學校長職務規程

明治卅三年(明治卅九年八月十日同四十年四月一日同年八月廿四日同四十三年四月十八日大正二年六月二十三日同八年十月十五日同九年八月廿五日改正)

第一條 校長ハ聘任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

- 第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト
- 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設ケルコト
- 第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト
- 第五 教官以下ノ除服出仕請假ニ關スルコト
- 第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト
- 第四條 前條ニ掲ケタルモノ、外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

第十 學生生徒兒童身體檢查規程及發育概評決定標準

文部省令第十六號 大正九年七月二十七日

學生生徒兒童身體檢查規程(抄)

第一條 學生生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ、但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體
檢查ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若シハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ
得學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 發育(身長、體重、胸圍、概評) 二 榮養 三 脊柱 四 視力及屈折狀態 五色神 六 眼疾 七 聽力 八 耳疾
- 九 齒牙 十 其ノ他ノ疾病及異常 十一 監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得

色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 檢查ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ忽ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タ
シムヘシ

三 體量ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ

四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ

五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三分ツモノトス

六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス

七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示ス
ルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサル
モノヲ強トス

八 視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ檢查シ裸眼視力ヲ記入スヘシ

裸眼視力一、〇以上ナルヲ正視眼トス

屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

九 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十 聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ檢查スヘシ

十一 齒牙ハ齶齒ニ就キ檢查スヘシ

十二 其ノ他ノ疾病及異常ハ檢查ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾
患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障礙ニ
注意スヘシ

十三 監察ノ要否ハ檢查ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ

「要」トシ記入スルモノトス

第五條 第一條第一項ノ身體檢查ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體檢查票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ、但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス

第一條第二項ノ臨時身體檢查ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體檢查票ノ裏面ニ記入スルモノトス、繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタル者アルトキモ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體檢查票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ、身體檢查票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第六條 身體檢查ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若クハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若クハ其ノ保護者ニ對シテ注意ヲ與ヘ其ノ必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第七條 第一條第一項ノ身體檢查ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體檢查統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(身體檢查票及統計表様式略ス)

文部省訓令第九號

大正九年七月二十七日

發育概評決定標準(抄)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リテ之ヲ定ムルモノトス

一、七年ヨリ十八年マテノ男子ハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年年長ノモノ、標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノモノ、標準以上ナルヲ乙トシテ甲乙何レニモ該當セサルモノヲ丙トス

二、十九年以上ノ男子ニアリテハ身長五尺三寸、體重十四貫三百匁、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、七〇以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長五尺一寸八分體重十三貫目身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、五一以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

發育決定標準表(抄)十五年以下ヲ略ス

年 齡	身 長	體 重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
十 六 年 年	五・〇四	一一・八六〇	二・三五
十 七 年 年	五・一八	一二・八五〇	二・四八

十	八	年	五・二五	一三・五三〇	二・五八
十	九	年	五・二九	一四・〇二〇	二・六五

第十一 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

文部省訓令第十八號 明治四十三年八月二十六日 (明治四十四年七月十二日訓令第十一號大)

行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

一 武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劔ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右翼約十歩ニ近キメルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車カ中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム

御車カ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二 武裝セサル場合

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ (體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム) 「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム
御車カ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

第十二 高等學校高等科學力檢定規程

文部大臣訓令 大正十年十一月二日

高等學校高等科ノ卒業生ニアラサル帝國大學又ハ官立大學學部入學志願者ニ對シ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ高等學校高等科學力檢定試驗施行ノ通告アリタルトキハ別紙規程ニ依リ試驗ヲ施行スヘシ
別紙

高等學校高等科學力檢定規程

第一條 高等學校高等科學力檢定試驗ハ帝國大學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定試驗施行ノ通告アリタル場合ニ限リ高等學校ニ於テ施行ス試驗ハ二月ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 試驗ハ高等學校高等科卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ、高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校第四年迄ノ必修各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依ル學力檢定試驗ヲ行フヘシ

第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ、既納ノ受験料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第四條 試驗ニ合格シタル者ニハ左式ノ證明書ヲ交付スヘシ

(證明書式略ス)

附 則

大學課科學力檢定規程ハ之ヲ廢止ス

第十三 陸軍現役將校學校配屬令

勅令第一三五號 大正十四年四月十一日

第一條 官立又ハ公立ノ師範學校、中學校、實業學校、高等學校、大學預科、專門學校、高等師範學校、臨時教員養成所、實業學校教員養成所又ハ實業補習學校教員養成所ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲陸軍現役將校ヲ當該學校ニ配屬ス但シ戰時事變ノ際其ノ他已ムヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル將校ノ配屬ハ陸軍大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ行フ

配屬將校ハ教練ニ關シテハ當該學校長ノ指揮監督ヲ承ク

第二條 私立ノ中學校、實業學校、高等學校、大學預科若クハ專門學校又ハ徵兵令第十三條第一項第二號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケタル私立學校ニ於ケル男生徒ノ教練ヲ掌ラシムル爲當該學校ノ申請ニ因リ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ將校ヲ配屬スル場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

大學學部ノ申出アルトキハ前二項ノ規定ニ準シテ陸軍現役將校ヲ之ニ配屬スルコトヲ得

第三條 陸軍大臣及文部大臣ハ特別ノ事由アルトキハ本令ニ依ル將校ノ配屬ヲ止ムルコトヲ得

第四條 陸軍大臣ハ現役將校ヲシテ本令ニ依リテ將校ヲ配屬シタル學校ニ於ケル教練實施ノ狀況ヲ査閲セシムルコトヲ得

第五條 官立又ハ公立ノ商船專門學校及商船學校ニハ第一條ノ規定ニ拘ラス將校ヲ配屬セサルコトヲ得

尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年ノ實業學校又ハ之ト同等以上ノ實業學校以外ノ實業學校、修業年限二年未滿ノ實業補習學校教員養成所及夜間ニ於テ教練ヲ課スル學校ニ付テハ第一條及第二條ノ規定ヲ適用セス

第六條 配屬將校傷疾疾病其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ服務シ難キトキハ陸軍大臣ハ文部大臣ト協議シテ他ノ現役將校ヲシテ其ノ服務ヲ代理セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條又ハ第二條ニ規定スル學校ニシテ徵兵令第十三條第一項第二號ノ規定ニ依ル認定ヲ受ケサルモノ及大正十四年二月一日以後ニ於テ設立シタルモノニハ當分ノ内將校ヲ配屬セサルコトヲ得

(參 照)

明治二十二年一月二十二日公布法律第一號徵兵令抄錄

第十三條第一項

左ニ提クル者ニシテ陸軍豫備役後備役將校相當官名ノ希望ヲ有スル滿十七歲以上二十一歲未滿ノモノハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ現役中ノ食料被服裝具等ノ費用ハ自辨トス但シ費用ノ一部ヲ官給スルコトアル可シ

第二 勅令ノ定ムル所ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ヲ卒業シ又ハ學校ノ課程ヲ修了シタル者

第十四 外國人特別入學規程並外國人及殖民地入學生ニ關スル件

文部省令第十五號 明治三十四年十一月十日

文部省直轄學校外國人特別入學規程

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若クハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依ル教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介ヲ添ヘ帝國大學總長若クハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若クハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限りニアラス

第四條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ハ試驗ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規程ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料、入學料及授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタル者ト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄學校外國委託生ニ關スル規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

文部省令第十六號 明治四十四年四月四日

文部省直轄學校外國人特別入學規程ハ臺灣人若クハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

(朝鮮留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト看做スコトニ明治四十四年十月六日官普一〇四號ヲ以テ通牒アリ)

(臺灣留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト看做スコトニ大正元年十一月十六日付普二三六號ヲ以テ通牒アリ)

外國人及殖民地入學生ニ關スル件 (大正十年五月九日) 發專六六號通牒

從來外國人ニシテ大學及其ノ豫科、高等師範學校、女子高等師範學校、專門學校又ハ高等學校ニ入學シ得ヘキ規定上ノ資格 (中學校又ハ高等女學校卒業、中學校第四學年修了者ハ之ト同等ノ學力アリト檢定セラレタル者) 等ヲ有セザル者此等ノ學校ニ入學セントスル場合ニ於テハ之ハ別科、選科等所謂特科生トシテ入學セシムル例

ナルモ外國人ニ關シテハ多少特例ヲ設クル必要アリト考ヘラルルヲ以テ今後ハ各學校ニ於テ其ノ入學資格ニ相當スル試験（例ヘハ中學校卒業ヲ入學資格トスル學校ニ於テハ中學校卒業程度ノ試験ヲ行フカ如キ）ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル合格者ハ之ヲ正科生トシテ入學セシメ差支ナキコトニ省議決定シタルニ依リ御承知相成度
 從來支那政府ノ委託ニ依リ東京高等師範學校、第一高等學校、東京高等工業學校、山口高等商業學校及千葉醫學專門學校ニ於テ收容セル留學生ニ就テハ從前ノ通取扱フモノト御承知相成度尙朝鮮人及臺灣人ニ關シテハ當分ノ内本外國人ト同様ニ取扱フモノトス

第二章 沿革略

本校ハ明治二十七年六月高等學校令ノ發布ニ依リ第二高等中學校ヲ改稱シタルモノニシテ、今迺リテ其ノ沿革ヲ擧ケンニ、明治十九年四月中學校令ヲ發布セラレ、全國ヲ五區ニ分割シ、每區ニ一ノ高等中學校ヲ設置スルコトニ定メラレ、其ノ第二區ノ設置區域ハ即チ宮城福島岩手青森山形秋田ノ六縣ニシテ、第二區ノ高等中學校ノ位置ヲ仙臺ニ定メラレ、明治二十年四月ニ至リテ創設セラレタルモノナリ。同月文部省參事官吉村寅太郎學校長ニ任セラレ、七月本校假事務所ヲ宮城縣尋常中學校ニ設ケ、八月荒町尋常小學校内ニ移ス。同月中學校令第五條ニ依リ、明治二十一年度高等中學校經費ハ國庫ト地方稅トノ支辨トシ、本校設置區域内各縣地方稅ノ負擔總額ヲ貳萬五千圓ト定メラル。同月高等中學校ノ醫科ヲ教授スル所ヲ醫學部トセラレ本校ノ醫學部ヲ仙臺ニ置カル。九月始メテ本校ノ授業ヲ開ク。同月醫學部ノ學科及其ノ程度ヲ定メラル。

同二十一年一月當分ノ内豫科補充生ヲ置キ、尋常中學校第二年級ノ學科程度ニ依リ授業スルコト、ス。同月岡山縣醫學校教諭山形伸藝本校教諭ニ任セラレ、醫學部主事ヲ命セラル。二月仙臺區片平丁元陸軍省用地ヲ本校敷地ニ定メラル。四月本校ヲ宮城縣尋常中學校跡ニ移轉シ、醫學部ヲ宮城醫學校跡ニ開設ス。同月始メテ醫學部ノ教授ヲ開ク。七月本校新築ノ工事ヲ起ス。八月高等中學校經費ハ來廿二年度以降地方稅ノ分擔ニ止メラル。

同二十二年二月二十二日

天皇皇后兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セラル。八月本部及醫學部ヲ片平丁新築校舍ニ移ス。同二十三年二月醫學部ニ於テ本學年限リ豫科ヲ設置ス。三月官立學校及圖書館會計法ノ公布ニヨリ本校亦資金ヲ有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄附金及其ノ他ノ收入ヲ以テ歲出ニ充ツルヲ許ツレ、特別ノ會計ヲ立テシメラル。八月醫學部ニ藥學科ヲ附設セラル。十月三十日教育ニ關スル勅語ヲ下賜セラレ、十二月二十七日特ニ御親署ノ勅語ヲ拜受ス。

同二十四年十月開校式ヲ舉行シ、兼テ醫學部生徒ノ卒業證書授與式ヲ行ヒ、二十二年及二十三年ノ卒業生ニ卒業證書ヲ授ク。

同二十五年六月本校所有地積合計參萬貳千貳百七拾參坪四合壹勺及之ニ建設セル建物合計參千四百八拾貳坪五合貳勺ヲ本校資金ニ編入セラレ、同月本部ニ和漢文學、英文學、數學、理學及體育ノ五學部ヲ設ケ各其ノ主任ヲ置ク。七月本部ニ於テ始メテ本科卒業證書授與式ヲ行フ。同月補充科二學級中其ノ第一年級ヲ廢ス。九月寄宿舎ヲ開設シ、舎監及寄宿舎係ヲ置ク。

同二十六年四月本校建物十一坪一合五勺ヲ本校資金ニ交付セラル。六月本科二部學科中農學科及林學科志望生ニ課スル學科ヲ増設ス。七月豫科補充生ヲ全廢ス。十月本校ノ建物四十五坪ヲ資金ニ交付セラル。

同二十七年五月諸規則ヲ改定ス。六月高等學校令ヲ公布セラレ、第二高等學校ト改稱ス。同月毎年十月二十六日ヲ以テ本校記念日ト定ム。九月英文學部ヨリ獨逸語學

ヲ分離シテ之ヲ一學部トナシ、又醫學科及藥學科ノ學科課程ヲ定ム。同月第三高等學校ヨリ本校ニ轉學スル生徒七十八名アリ、校舍狹隘ヲ告ケタルヲ以テ寄宿舎ヲ廢シ、圖書室博物室事務室ヲ該舎内ニ移ス。十月大學豫科ノ課程ヲ定ム。十一月諸規則ヲ改正ス。

同二十八年五月醫學藥學得業士ノ稱號ニ關スル規程ヲ定ム。八月大學豫科ノ課程ヲ改定ス。九月校務分掌規程ヲ更定シ、十月再ヒ之ヲ更正ス。

同二十九年六月明治三十年四月以降ハ大學豫科ノ生徒ヲ入學セシムルニ、高等中學校設置區域ニ依ラサルコトニ改メラル。八月醫學部藥學科課程並藥學科卒業證書式中更正ス。九月自今倫理科ハ別ニ講筵ヲ開クコトヲ廢シ、每學期ノ始メ 勅語奉讀式ヲ行ヒ、學校長ヨリ生徒ノ居常服膺スヘキ條件ヲ演達シ、平常ハ各教員ヨリ倫理ニ關スル事項ヲ懇諭シ、又必要ナル場合ニハ臨時ニ生徒ヲ集メテ訓戒ヲ與フルコト、ス。同月專門學務局長ヨリ來三十一年以降各分科大學各學科ニ入學志望者豫定人員

ニ超過スル場合ニ於テハ競争試驗ヲ行フヘキ旨通牒アリ。十二月同局長ヨリ競争試驗ノ結果ニ由リ入學スルコトヲ得サル者ノ取扱方ニ付通牒アリ。同月本校規則中通則及醫學部豫科入學試業規程ヲ更正ス。

同三十年一月學校清潔方法ノ標準ヲ定メラル。三月醫學部主事山形仲藝獨國留學ヲ命セラレタルニヨリ、教授内田守一醫學部主事心得ヲ命セラレ、四月學校長吉村寅太郎文部省參事官ニ轉任シ、澤柳政太郎本校々長ニ任セララル。五月醫學部藥學科卒業試問ノ學科中ニ化學ヲ加ヘ、該科目ヲ卒業證書ニ記入スルコト、ス。七月本校規則中通則及大學豫科試業進級規程ヲ更正ス。八月醫學科課程表中ニ細菌學ヲ加フルコト、ス。十一月新築工事ノ内博物及地質鑛物圖書教室落成ス。十二月仙臺市東三番丁附屬地(宮城病院)臨床講義室新築落成ス。

同三十一年三月圖書測量室新築落成ス。四月富校圖書館規則ヲ改正ス。六月大學豫科第三部ノ學科課程ヲ定ム。同月本年ノ大學豫科第一年級ニ入學セシムヘキ豫定人

員ヲ達セラル。七月學校長澤柳政太郎第一高等學校長ニ轉任シ、菊池謙二郎本校々長ニ任セラル。八月本校通則中ノ改正ヲナシ、並醫學部大學豫科入學試業規程ヲ廢止ス。又寄宿舎設置並規則ヲ認可セラル。九月大學豫科第三部ノ授業ヲ開始ス。十月寄宿舎ヲ開始ス。同月新築工事ノ內醫學部生理病理ノ二教室落成シタルニ付、大學豫科教室ヲ其ノ跡ニ設ク。十二月醫學部組織學教室新築落成ス。

同三十二年五月本年ノ大學豫科第一年級ニ入學セシムヘキ豫定人員ヲ達セラル。同月直轄學校一覽ノ編纂要目及進達期限ヲ達セラル。六月本校規則休學規程中改正ス。七月教授醫學部主事山形仲藝歸朝セシニヨリ、教授內田守一醫學部主事心得ヲ免セラル。同月ヨリ一週二回倫理學ノ講義ヲ開キ、醫學部生徒大學豫科生徒ニ各一回宛聽講セシムルコト、ス。同月新ニ歴史部理學部ヲ設ケ之カ主任ヲ置ク。

同三十三年四月學校長菊池謙二郎休職ヲ命セラレ、第五高等學校長中川元本校々長ニ任セラル。五月本年大學豫科第一年級ニ入學セシムヘキ豫定人員ヲ達セラル。六

月直轄諸學校長職務規程ヲ改正セラル。八月高等學校大學豫科學科規程ヲ改正セラル。九月當校大學豫科ニ於テ佛蘭西語限定ノ件並入學試驗ノ外國語ハ英語ニ限ル件許可セラル。同月醫學部藥學科中衛生化學ノ內ニ於テ細菌學ヲ課スルコト、ス。同月大學豫科第二年以上ノ生徒ニハ其ノ卒業ニ至ルマテ舊規定ニ依リ教授フルコト、ス。同月寄宿舎係事務要項並大學豫科教務規程ヲ改正ス。十二月本校規則中通則及大學豫科課程ヲ改正ス。同月本校物品檢閱假規程ヲ制定ス。

同三十四年三月年報取調條項中改正セラル。四月醫學部ヲ分立シテ仙臺醫學專門學校ト改稱セラレ、尋テ本校職員ノ定員ヲ改正セラル。五月本年ノ新募集人員ヲ達セラレ又商議委員規程ヲ廢セラル。六月授業料額ヲ改正ス。九月試業規則ヲ改正ス。十一月宮城縣下ニ於テ陸軍特別大演習ヲ施行セラレ 陛下御統監アラセラル、ニ付當校へ御臨幸ヲ仰キ奉リシニ同月十日午後 彰仁親王殿下御臨校アラセラル。同三十五年四月第三臨時教員養成所ヲ本校内ニ設置セラル。六月本校生徒ノ略帽ヲ

定ム。九月寄宿舎ヲ廢シ、校務分掌規程ヲ改正シ、生徒監督條ヲ置ク。十月生徒通學規程ヲ定ム。

同三十六年四月高等學校大學豫科入學者選抜試験規程ヲ定メラル。十月柔道及擊劍ヲ體操科ノ副科トシテ課スルコト、定ム。十二月文部省令第三十九號ヲ以テ徵兵事務條例ニヨリ學生生徒ニ交付スヘキ在學證明書書式ヲ定メラル。

同三十七年一月徵兵令上ノ特典ヲ有スル學校ノ取締ニ關シ訓令セラレ、同月告示第十六號ヲ以テ大學豫科入學者選抜試験規程中改正セラル。二月宣戰ニ付教育ニ從事スル者ノ心得方ヲ訓令セラル。同月内務省令第一號ニ據リ肺結核豫防法ヲ實施ス。三月教室一棟新築落成ス。五月告示第百十九號ヲ以テ大學豫科入學者選抜試験規程中改正セラル。同月本校生徒ノ服制中夏服ヲ改正ス。七月東京帝國大學ニ御臨幸ノ節文部大臣ヲ召サセラレ教育ノ事ニ關シ深厚ナル御沙汰ヲ賜リタルニ付特ニ訓令ヲ發セラレタル趣旨ヲ職員生徒ニ訓示ス。十月時局ニ關シ内閣總理大臣ヘ勅語ヲ賜リ

タルニ付特ニ文部大臣ヨリ令達セラル。十一月本校規則中第二款並第五款中改正ス。

同三十八年九月本規則中第四款卒業證書式ヲ改正シ、又第六款特待生規定ヲ廢ス。

同月都下ノ物情ニ付文部大臣ノ訓令アリ。十月文部省令第十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ直轄學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキ其ノ試験ハ無効トスル旨達セラル。

同三十九年六月文部省訓令第一號ヲ以テ學生生徒ノ風紀振肅ニ關スル件訓令セラル。十二月防火警備心得ヲ改正ス。同月當校生徒端艇競漕用運動場敷地トシテ陸前國宮城郡鹽釜町大字鹽釜小字杉ノ入表國有林(舊地目草山)ヲ文部省所管ニ地種組替ヲ了ス。同四十年二月本校々舎ノ一部ヲ二月十八日ヨリ同三月三十一日マテ仙臺高等工業學校ヘ貸付ス。四月文部大臣ヨリ地方長官ヘ生徒中外國人ニ對シ禮節ヲ缺キ或ハ粗野ノ言行ヲ敢テスルカ如キハ累ヲ國交上ニ及ホシ其ノ害甚大ナリ平素此ノ如キ點

ニ付尙一層戒慎ヲ加フヘキ件訓令アリタルヲ以テ右同様注意スヘキ旨文部次官ヨリ通牒アリ。五月文部省普通學務局長ヨリ各地方長官ニ對シ單ニ徵集ヲ猶豫セラレムカ爲ニノミ學校ニ籍ヲ置クモノ、取締方ニ關シ通牒セラレタルヲ以テ其ノ旨更ニ通牒アリ。六月勅令第二百四十六號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制中改正ニ關シ教官及生徒監ノ職務ニ就キ文部大臣ノ訓令アリ。七月生徒寄宿舎規則ヲ制定ス。八月帝國ト露國トノ關係ニ就キ國交ノ好誼ヲ損シ協約ノ精神ヲ誤ラサル様特ニ留意シ國民ヲシテ過去ノ感情ヲ脱シ善隣ノ誠ヲ以テ協約ノ精神ニ副ハシムルコトヲ期スヘキ件内閣總理大臣ヨリノ訓令ニ基キ能ク其ノ精神ヲ體スヘキ旨文部大臣ヨリ訓令アリ。同四十一年二月化學教室一棟新築落成ス。三月文部省告示第七十八號ヲ以テ三十六年文部省告示第八十四號高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ヲ廢止セラレ、更ニ文部省令第九號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者資格ヲ定メ、併セテ二十七年文部省令第十六號高等學校ノ修業年限及入學程度ヲ廢止セラレ、又同省令第十三號ヲ以テ

三十三年省令第四號學生生徒身體檢査規程ヲ改正セララル。七月仙臺市片平丁四十番地ノ土地千六百坪四勺九才ヲ本校運動場トシテ司法省ヨリ管理換トナル。九月學生ノ風紀其ノ他教育上ノ時弊矯正方ニ關シ文部次官ヨリ注意ノ通牒アリ。十月十七日東宮殿下當校ニ行啓機械標本陳列室及歴史教授ヲ台覽アラセラレ、當日 殿下ノ御眞影ヲ下賜セララル。同月十三日一般國民ニ對シ優渥ナル詔書ヲ下シ賜フ。十二月物理實驗室一棟新築落成ス。同月仙臺市片平丁四十四、四十五兩番地ノ内及四十一番地四十二番地四十三番地合計九百七坪二合六勺ノ民有地ヲ買收シテ運動場トナス。

同四十二年一月直轄學校學生生徒ノ風紀ニ關スル訓令アリ。四月勅令第八十八號ヲ以テ本校教授ノ定員ヲ改正セラレ、又省令第十一號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程ヲ定メラル。五月本校規則中入學ニ關スル規則ヲ改正ス。七月本校敷地貳萬六千七百七坪八合三勺ノ内六千二百五十二坪ヲ東北帝國大學理科大學建設地ト

シテ文部省建築課仙臺出張所ニ引渡ヲ了ス。八月運動場門番所一棟古河家ヨリ寄附ノ趣ヲ以テ文部省ヨリ引繼ヲ受ク。同月文部省令第十九號ヲ以テ明治四十二年同省令第十一號高等學校大學豫科入學者選抜試験規程中改正セラレ、又同省令第二十號ヲ以テ明治三十三年同省令第十三號高等學校大學豫科學科規程中改正セラル。九月文部省訓令第十三號ヲ以テ直轄學校ノ德育ニ關スル訓令アリ。十一月本校規則第三款學科課程表中改正ヲナシ、同月行軍規程中行軍費金額ヲ改正ス。十二月本校規則第四款追試験出願期日ヲ定ム。

同四十三年三月勅令第六十七號ヲ以テ本校專任教員ノ定員中助教授七人ヲ三人ニ改正セラレ、同月勅令第三百三十四號ヲ以テ高等官々等俸給令ヲ改正セラレ、同月勅令第三百三十五號ヲ以テ判任官俸給令ヲ改正セラレ、同月勅令第五百五十四號ヲ以テ文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件ヲ公布セラル。四月十日直轄諸學校長職務規程第二條第一項第三號中改正セラレ、同月文部省令第九號ヲ以テ明治三十三年省

令第十三號高等學校大學豫科學科規程第五條第二部各學科每週授業時數表附記中改正セラレ、同月本校職員服制ヲ改正ス。五月煉瓦造三階建ノ書庫二十四坪建築竣工ニ付文部省ヨリ引繼ヲ受ク。同月文部省告示第三百三十七號ヲ以テ本年各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ數及選抜試験ニ關スル事項ヲ定メラル。同月文部省令第十一號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選抜試験無試験檢定規程ヲ定メラレ、同月本校規則第三款學科課程第五款第二部學科課程表中ニ水産科ヲ加フ。六月木造建ノ元磁力計室一棟二十九坪七合五勺ヲ當校ニ管理組換ノ件許可セラル。八月文部省訓令第十八號ヲ以テ 行幸啓ノ節學生生徒ノ敬禮方ヲ定メラル。九月文部省告示第二百十三號ヲ以テ同一人ニシテ帝國大學及文部省直轄諸學校中ノ二箇以上ノ學科若クハ學校ニ入學許可セラレタル者ノ入學ニ關シ改正セラレ、同月本校規則第五款授業料中明治三十八年七月以前入學者ノ納金額ヲ削除シ、且納付期日ヲ定メ、又第七款寄宿舎寮費ヲ改正ス。十一月文部省令第二十六號ヲ以テ明治三十三年文部省令第十三號高

等學校大學豫科學科規程中倫理ヲ修身ト改正セラル。

同四十四年一月學校長中川元仙臺高等工業學校長ニ轉任シ、教授三好愛吉學校長ニ任セラル。二月學校長三好愛吉第三臨時教員養成所教授ニ兼任セラル。四月圖書測量教室一棟新築竣工シ、此ノ工事ニ伴ヒ正門北側ニ在リシ門番所ヲ南側ニ移轉ス。同月文部省告示第四百四十七號ヲ以テ本年各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒數及選拔試験ニ關スル事項ヲ定メラル。五月本校規則第五款授業料及被服中改正ヲナシ、授業料ヲ一學年金參拾五圓トシ、併セテ規則第二款入學在學及退學第七款寄宿舍中改正ヲナシ且規則各款ノ條目ヲ通シテ第一條ヨリ第四百四條マテトナス。七月勅令第二百十七號ヲ以テ高等中學校令ヲ公布セラレ、同月文部省令第二十五號ヲ以テ高等中學校規程ヲ定メラル。十一月行軍規程及校務分掌規程ヲ改正ス。

同四十五年一月文部省令第一號ヲ以テ學生生徒身體檢查規程ヲ改正セラル。二月圖書寄託規程ヲ定ム。四月圖書閱覽室新築落成ス。五月一日ヨリ圖書館夜間開館ヲ實

施ス。七月三十日 天皇陛下崩御アラセラレ皇太子殿下踐祚大正ト改元セラル。

大正元年八月一日職員生徒出校 先帝ノ御眞影ヲ拜ス。九月十三日御大葬儀ニ付職員生徒遙拜式ヲ執行ス。十月二十六日本校創立二十五年記念式ヲ舉行ス。十一月六日 明治天皇百日祭ニ付職員生徒遙拜式ヲ執行ス。十二月本校規則並細則中改正ス。

大正二年三月勅令第十八號ヲ以テ高等中學校令中改正セラレ、本令施行ノ期日ハ文部大臣之ヲ定ムルコト、セラル。四月本校職員心得ヲ定ム。同月文部省告示第九十一號ヲ以テ從來本校内ニ置キタル第三臨時教員養成所ヲ大正二年四月ヨリ東北帝國大學内ニ置クコト、セラル。五月本校生徒作法要項ヲ定ム。同月本校物品會計細則ヲ定ム。同月本校規則中入學料ノ金額ヲ改正ス。六月本校事務協議會規程ヲ定ム。同月直轄諸學校長職務規程ヲ改正セラル。八月學資保管規程ヲ定ム。十月本校規則中ノ休日ニ天長節祝日ヲ加フ。十一月本校規則中入學ニ關スル事項ヲ改正ス。同三年一月生徒總代規程ヲ定ム。四月十一日 皇太后陛下崩御アラセララル。四月文

部省令第十八號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程中改正セラル。五月二十四日 昭憲皇太后御大葬儀ニ付職員生徒遙拜式ヲ舉行ス。六月生徒總代規程中改正ス。同月勅令第二百二十四號ヲ以テ文部省直轄諸學校ノ名譽教授ニ關スル件ヲ公布セラル。十一月本校規程中入學及制服ニ關スル事項ヲ改正ス。

同四年四月學校長三好愛吉皇子傳育官長ニ轉任シ、教授武藤虎太學校長兼教授ニ任セラル。同月本校細則中評議員會假規程ヲ廢止ス。八月勅令第五百五十二號ヲ以テ名譽教授ノ待遇ヲ定メラレ、同日勅令第五百五十三號ヲ以テ高等官官等俸給令中改正セラル。十月御眞影奉安殿竣工ス。同月二十一日 天皇陛下ノ御眞影ヲ下賜セラレ、翌二十日 奉安ノ儀式ヲ舉行ス。十一月十日御即位奉祝式ヲ舉行ス。十二月勅令第二百三十六號ヲ以テ本校職員定員中改正セラレ、十二月十一日文部省訓令第八號ヲ以テ教育ニ關スル御沙汰書ニ付告知セラル。

同五年一月十一日教育ニ關スル御沙汰書奉讀式ヲ舉行ス。六月勅令第七十四號ヲ

以テ高等官官等俸給令中文部省直轄諸學校長ノ官等ニ關シ改正セラル。十月文部省訓令第五號ヲ以テ 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方ヲ改正セラル。同月二十一日 皇后陛下御眞影竝 皇太子殿下御影ヲ下賜セラレ、同二十三日 奉安ノ儀式ヲ舉行ス。十一月三日立太子禮奉祝式ヲ舉行ス。十二月二十八日勅令第二百六十四號ヲ以テ本校職員定員中改正セラル。

同六年四月二十七日文部省令第四號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程、同第五號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗無試驗檢定規程ヲ改正セラレ、九月二十二日勅令第六十一號ヲ以テ本校職員定員中改正セラレ。同月學校醫服務規程ヲ定メ生徒總代規程ヲ改正ス。十二月二十八日從來ノ宿直心得ヲ廢シ當直規程ヲ定ム。

同七年三月二十五日木造二階建教官及小使室等五棟竣工ス。七月十八日勅令第二百八十六號ヲ以テ本校職員定員中改正セラル。十二月五日勅令第三百八十九號ヲ以テ

高等學校令ヲ公布セラル。同月十五日改築校舎十一棟竣工ス。

同八年三月二十九日文部省令第八號ヲ以テ高等學校規程同第九號ヲ以テ高等學校高等科入學資格試驗規程、同第十號ヲ以テ高等學校教員規程、同四月同第十四號ヲ以テ官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程ヲ定メラル。同五月十二日本校學則ヲ定ム。同九月二十日評議員會規程ヲ定メ、又細則中改正ス。同十二月四日文部省令第四十號ヲ以テ高等學校教員規程ヲ改正セラル。

同九年一月十五日平和條約宣布ノ詔書奉讀式ヲ舉行ス。同月二十四日文部省令第四號ヲ以テ高等學校規程ヲ改正セラル、二月十四日文部省令第六號ヲ以テ徵兵事務條例附則第三項ニ依リ學校長ノ交附スル在學證明書ニ關スル規程ヲ定メラレ、三月三十一日勅令第七十六號ヲ以テ高等官官等俸給令中改正セラル、七月二十七日文部省令第十六號ヲ以テ學生生徒兒童身體檢査規程ヲ定メラル。八月十四日武藤學校長歐米各國へ出張ヲ命セラレ、同月十七日玉蟲教授學校長歐米各國出張中代理ヲ命セラ

ル。同日勅令第二百五十七號ヲ以テ高等官官等俸給令、同勅令第二百五十八號ヲ以テ判任官俸給令中改正セラル、同月二十五日直轄學校長職務規程中改正セラル、同月二十七日勅令第三百三十九號ヲ以テ本校職員定員令中改正セラル、教授三十四人ヲ三十六人ニ改正セラル。九月十四日本校學則中授業料額ヲ改正ス。十月三十日教育勅語御煥發三十年記念式ヲ舉行ス。十二月二十五日本校學則中學年及學期等ヲ改正ス。同月二十五日高等官官等俸給令中改正セラル。

同十年五月二十一日勅令第二百廿三號ヲ以テ奏任文官及判任文官ノ優遇ニ關スル件公布セラル。同月廿五日勅令第二百三十三號ヲ以テ本校職員定員令中改正セラル、助教教授四人ヲ五人ニ改正セラル。六月廿三日歐米各國ニ出張中ノ武藤學校長歸任ス。九月三日 皇太子殿下御歸還ニ付奉祝式ヲ舉行セリ。九月十三日文部省令第卅九號ヲ以テ高等學校教員規程中改正セラル。十一月九日學校長武藤虎太第四高等學校長ニ轉任シ、第八高等學校長岡野義三郎本校々長ニ任セララル。同月廿六日文部省令第

四十五號ヲ以テ高等學校高等科入學試驗規程中ニ「理科丙類佛語ヲ第一外國語トスルモノ」ノ一項ヲ加ヘラル。

同十一年一月二十一日勅令第六號ヲ以テ在外研究員規程ヲ改正セラル。四月五日本校學則中生徒ノ授業料一學年四拾圓ヲ五拾圓ト改正ス。五月五日物理實驗室及動植物實驗室竣工ス。七月四日閣令第六號ヲ以テ官廳執務時間及休暇ニ關スル件公布セラル。同月六日 皇太子殿下北海道ニ行啓ノ爲仙臺市ニ御一泊アラセラル、ニ付當日及翌日職員生徒奉送迎ヲナシタリ。十月卅日文部省訓令第十號ヲ以テ學制頒布五十年記念式典ヲ舉行スルニ當リ優渥ナル勅語ヲ賜ハリタル旨告知セラル。十二月廿七日文部省告示第五百九十一號ヲ以テ直轄學校入學許可ノ前後ニ依リ入學スヘキ制限ヲ廢止セラル。

同十二年一月二十二日文部省令第一號ヲ以テ朝鮮教育令ニ依リ設置セル學校卒業生ノ他學校ニ入學轉學ニ關スル規程ヲ定メラル。二月八日文部省訓令第二號ヲ以テ高等學校高等科文科數學及哲學概說教授要目ヲ定メラル。同月十四日貞愛親王御葬儀ニ付休業シテ奉弔ノ意ヲ表シタリ。二月二十二日本校學則中寮費額ヲ改正ス。四月五日文部省告示第二百六十二號ヲ以テ高等學校高等科卒業生ノ中學校教員無試驗檢定學科目ニ數學科ヲ加ヘラル。七月二日本校細則物品會計規程施行細則中物品檢閱委員ノ任命期及申報時期ヲ改正ス。同月十九日仙臺市北六番丁本校移轉建築地ニ於テ地鎮祭ヲ舉行セリ。九月一日關東地方大震災ノ爲遭難地方ノ生徒ハ悉ク歸省シ且救援等ノ爲出校セサルモノ多キヲ以テ同月八日ヨリ十日マデ臨時休業ヲナシタリ。

同十三年一月二十六日 皇太子殿下御結婚ノ大典ヲ行ハセラル、ニ付奉祝式ヲ舉行セリ。三月二十八日文部省訓令第二號ヲ以テ高等學校高等科國語及漢文、圖畫教授要目ヲ定メラル。四月一日本校學則中兵役ニ服スル者ノ休學及授業料免除等ニ關シ改正ス。六月二十四日閣令第四號ヲ以テ官廳執務時間ヲ改正セラル。九月九日文部

省令第十八號ヲ以テ學校傳染病豫防規程ヲ改正セラレ。十月十一日文部省告示第三百七十五號ヲ以テ英語ニ付小學校本科正教員免許狀所有者ヲ高等學校入學資格アリト指定サル。十月二十六日本校第三十七回記念式並尙志會創立三十年記念式ヲ舉行セリ。

大正十四年二月五日北六番丁ニ新築ノ教室事務室講堂等落成シ引繼ヲ了セリ。三月二十日文部省訓令第二號ヲ以テ高等學校高等科歴史教授要目ヲ定メラル。四月本校學則中生徒ノ授業料一學年五十圓ヲ六十五圓ト改正セリ。同月十一日勅令第三百三十五號ヲ以テ陸軍現役將校學校配屬令ヲ發布セラレ。七月八日北六番丁新築校舍ニ移轉セリ。

第三章 學 曆

四月三日	神武天皇祭
四月五日	春季休業終ル
四月六日	第一學期始業
七月十日	第一學期終業
七月十一日	夏季休業始ル
七月三十日	明治天皇祭
八月三十一日	天 長 節
八月三十一日	夏季休業終ル
九月一日	第二學期始業
秋 分 日	秋季皇靈祭
十月十七日	神 嘗 祭

十月二十六日	開校記念日
十月三十一日	天長節祝日
十一月二十三日	新嘗祭
十二月二十四日	第二學期終業
十二月二十五日	冬季休業始ル
一月一日	新年拜賀式
一月七日	冬季休業終ル
一月八日	第三學期始業
二月十一日	紀元節
三月十五日	第三學期終業
三月十六日	春季休業始ル
春分日	春季皇靈祭

第四章 學 則

第一款 學年、學期及休業

第一條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス

第二條 學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテ第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

第三條 休業日左ノ如シ

一日 曜日	
一 春季休業	三月十六日ヨリ 四月五日マテ
一 夏季休業	七月十一日ヨリ 八月三十一日マテ
一 秋季皇靈祭	秋分日

- 一 神嘗祭 十月十七日
- 一 開校記念日 十月二十六日
- 一 天長節祝日 十月三十一日
- 一 新嘗祭 十一月二十三日
- 一 冬季休業 十二月二十五日ヨリ
翌年一月七日マテ
- 一 紀元節 二月十一日

第二款 入學、在學、休學及退學

第四條 入學ノ時期ハ學年ノ始ノヨリ三十日以内トス

第五條 本校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルヘシ

- 一 中學校第四學年ヲ修了シタル者
- 二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者

三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第六條 入學セシムヘキ生徒ノ概數選抜試験ニ關スル概要及出願ノ手續ハ毎回之ヲ定ム

第七條 入學志願者ハ志望ノ科類ヲ指定シ名票所定ノ欄内ニ記入スヘシ其ノ指定スヘキ科類左ノ如シ

- | | |
|-------|--------------|
| 文科 甲類 | 英語ヲ第一外國語トスル者 |
| 文科 乙類 | 獨語ヲ第一外國語トスル者 |
| 理科 甲類 | 英語ヲ第一外國語トスル者 |

理科 乙類

獨語ヲ第一外國語トスル者

入學志願者ハ志望ノ科類ニ簡(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ順位ヲ定ムヘシ

第八條 入學檢定料ハ金五圓トス

第九條 入學志願者ノ數各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ

第十條 選抜試驗ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就テ中學校第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フ

外國語ハ各科ヲ通シテ英語及獨語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

但シ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限ル

第十一條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

一 各科毎ニ其ノ科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試驗ノ成績順ニ

ヨリ選出ス

二 前號ノ場合ニ於テ試驗成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル

三 前二號ニ依リ選出セル人員ニ就キ試驗ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス

四 前號ノ場合ニ於テ試驗成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル

五 第三號及第四號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニヨリ本人ノ指定スル第二ノ志望類ニ配當ス

六 前數號ニヨリ配當ノ結果本人ノ指定スル志望類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス

前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ前項選出人員以外ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

第十二條 前條ニヨリ決定シタル入學者ノ氏名ハ官報ニ掲載シ且本人ニ之ヲ通知ス

第十三條 入學ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期日マテニ戶籍謄本及履歷書ニ入學料金參圖ヲ添ヘ本校ニ差出スヘシ

指定ノ期日マテニ前項ノ手續ヲ了セサル者ハ其ノ入學ノ許可ヲ無効トス

第十四條 一旦納附シタル入學檢定料及入學料ハ之ヲ返付セス

第十五條 退學シタル者其ノ退學ノ時ヨリ一年以内ニ於テ再入學ヲ請フトキハ其ノ

事由ニ依リ之ヲ許スコトアルヘシ但シ時宜ニ依リ試験ヲ施スコトアルヘシ

第十六條 兵役ニ服スル爲退學シタル者服役滿期ノ後一年以内ニ再入學ヲ請フトキ

ハ試験ヲ須ヒス之ヲ許可シ原級ニ編入スルモノトス

第十七條 本校生徒ハ學校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他ノ學校ノ入學試験ヲ受ク

ルコトヲ得ス

第十八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ左式ノ身元保證書並在學證書ヲ指定ノ期日マテ

ニ差出スヘシ用紙ハ本校ヨリ交付ス

第一號書式

參錢收
入印紙
貼用

身元保證書

今般何某儀御校高等科何科何年ニ入學御許可相成候ニ付テハ其ノ在學中ニ係ル事件ハ同人在學中ハ勿論御校ノ學籍ヲ脱シ候後タリトモ一切引受可申候仍テ保證書如斯候也

族籍及職務若クハ職業

父兄又ハ親戚ノ關係

身元保證人 何

某

年・月・日

生年月日

現住所

第二高等學校長何某殿

前書保證人何某ハ成年男子ニシテ本市區町村內ニ於テ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之

候也

年月日

何府市區町村長 何

某印

第二號書式

參錢收
入印紙
貼用

在學證書

私儀御校在學中ハ御規則等堅ク相守リ猥リニ退學仕間敷候仍テ證書如斯候也

高等科何科何年生

原籍 族稱

寄留地

年月日

何

某印

(假名ヲ附スヘシ)

生年月日

宿所

第二高等學校長何某殿

前文何某在學中其ノ監督保護ノ責ニ任スルハ勿論在學中ニ係ル事件ハ同人御校ノ學籍ヲ脱シ候後タリトモ拙者ニ於テ一切引受可申候仍テ保證書如斯候也

族籍及職務若クハ職業

生徒ニ對スル關係

年月日

在學保證人 何

某印

生年月日

現住所

前書保證人何某ハ成年男子ニシテ本市内ニ於テ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

年月日

仙臺市長 何

某印

本校ニ於テ適當ト認メタル保證人ハ此ノ與書ヲ要セス又不適當ト認メタル保證人ハ之ヲ改メシムヘシ

第十九條 身元保證人ハ父兄若クハ親戚中ノ成年男子ニシテ一家計ヲ立テ生徒ノ身分ニ關シ一切引受クルニ足ル者在學保證人ハ成年男子ニシテ仙臺市内ニ於テ一家計ヲ立ツル者又ハ本校ニ於テ適當ナリト認メタル者ニ限ル

第二十條 保證人宿所ヲ轉シ或ハ改印スル等ノ事アラハ其ノ旨直チニ届出ツヘシ

第二十一條 保證人死去スルカ若クハ保證人タル資格ヲ失フカ或ハ旅行三箇月以上ニ涉ルキハ直チニ他人ヲ以テ之ヲ代ヘ更ニ身元保證書又ハ在學證書ヲ差出スヘシ

第二十二條 生徒疾病或ハ事故ニヨリ缺席スルトキハ其ノ當日ヨリ三日以内ニ其ノ事由ヲ詳記シ在寮生ニアリテハ生徒監ノ檢印ヲ受ケ其ノ他ニアリテハ保證人連署ノ上其ノ旨届出ツヘシ

但シ二日以上缺席セントスルトキハ其ノ日限ヲモ記スヘク又疾病ニヨリ七日以

上缺席セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二十三條 生徒疾病其ノ他已ムヲ得サル事故アリテ滿三箇月以上修業スルコト能ハサル見込ノ者ハ保證人連署ノ上(疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ)豫メ出願シ許可ヲ得テ該學年間休學スルコトヲ得

第二十四條 兵役ニ服スル故ヲ以テ休學ヲ願フ者ハ其ノ服役中ニテ許可ス

第二十五條 休學ハ一學級一回ニ限ルモノトス但シ兵役ニ服スル爲休學スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十六條 休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學年ノ始メヨリ其ノ原級ニ編入ス

第二十七條 休學シタル事由止ミタルトキハ願ニ依リ詮議ノ上原級ニ復セシムルコトアルヘシ

第二十八條 生徒疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ保證人連署ノ上其ノ旨届出ツヘシ

但シ疾病ノ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添フルモノトス

第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ退學セシム

一 二學年引續キ落第シタル者

二 休學一年落第一回併セテ二學年間引續キ同級ニ止マル者

但シ兵役ニ服スル故ヲ以テ休學シタル場合ヲ除ク

三 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

四 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

五 引續キ一年以上缺席シタル者

六 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

七 出席常ナラサル者

八 授業料ノ未納三週日ニ至ル者

第三十條 生徒ノ入學及退學ニ關シテハ時宜ニヨリ臨機ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第三款 懲 戒

第三十一條 生徒タル本分ニ背キタル者ハ其ノ輕重ニ依リ之ヲ懲戒ス

第三十二條 懲戒ハ戒飭停學及放校トス

但シ戒飭停學ニハ減點ヲ附加スルコトアルヘシ

第四款 學科課程

第三十三條 高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第三十四條 高等科ノ課程ヲ分チテ三學年トス

第三十五條 高等科ノ外國語ハ英語及獨語トス

第三十六條 高等科ノ學科課程ハ大正八年三月二十九日文部省令第八號高等學校規

程ニ依ル

第三十七條 高等科ノ學科課程ヲ定ムルコト左表ノ如シ

高等科 文科 學科課程表

修身	國語及漢文	英語	獨語	歷史	地理	哲學概說	學年	
							第一	第二
實踐道德	講讀、作文、文法	讀方、譯解、文法	發音、綴字、讀方、譯解、文法	日本史	世界各國現狀		上	同
同上	講讀、作文、文法	讀方、譯解、文法	發音、綴字、讀方、譯解、文法	同上	同上		上	獨
國民道德	講讀、作文、文法	讀方、譯解、文法	發音、綴字、讀方、譯解、文法	東洋史	同上		上	同
同上	講讀、作文、文法	讀方、譯解、文法	發音、綴字、讀方、譯解、文法	西洋史	同上		上	獨
倫理學	講讀、作文、文法	讀方、譯解、文法	發音、綴字、讀方、譯解、文法	同上	同上		上	同
同上	講讀、作文、文法	讀方、譯解、文法	發音、綴字、讀方、譯解、文法	同上	同上		上	獨

高等科 理科 學科課程表

修身	自然科學	數學	法制及經濟	心理及論理	體操	計	學年	
							第一	第二
實踐道德	生物及地質	諸論大要			教練及體操		上	同
同上	同上	同上			同上		上	獨
國民道德	物理及化學		法	論	同上		上	同
同上	同上		制	理	同上		上	獨
倫理學			濟	心	同上		上	同
同上			同上	理	同上		上	獨

心理	鐵物及地質	植物及動物	化學	物理	數學	獨語	英語	國語及漢文
	二	二			四	四	八	四
	及地球變遷	植物一般			代數何法	發音、綴字、讀方、譯解、書取、文法	讀方、譯解、文法、作文	講讀、作文
	二	二			四	二	三	四
	上	上			同	發音、綴字、讀方、譯解、書取、文法	讀方、譯解、文法、作文	上
二		二	三	三	四	四	六	二
大		動物一般	無機化學	力學、物性、熱、響	初等何析數	讀方、譯解、作文、文法	讀方、譯解、文法、作文	同
意					四	九		上
二		同	同	同	同	讀方、譯解、文法、作文	讀方、譯解、文法、作文	二
同		上	上	上	上	四	六	上
上		(四)	五	五	(二)四	四	六	
		植物實驗	有機化學	電、光、磁、氣	微分及積分	讀方、譯解、作文、文法	讀方、譯解、文法、作文	
		二二	二二	二二	二二	九	三	
		(四)	五	五	(二)四	九	三	
		同	同	同	同	讀方、譯解、文法、作文	讀方、譯解、文法、作文	
		實驗	實驗	實驗	實驗	文法、作文	文法、作文	
		二二上	二三上	二三上	上			

法制及經濟	圖	體操	計
二	二	三	三
一	自在、平面幾何、立體幾何	教練及體操	
二	二	三	三
上	上	上	
	二	三	三
	立體幾何	上	
	二	三	三
	上	上	
	(二)	三	三
	上	上	
	(二)	三	三
	上	上	

第五款 試驗、進級及卒業

第三十八條 試驗ヲ分テ學期試驗、臨時試驗ノ二種トス

第三十九條 學期試驗ハ每學期ノ終ニ於テ期日ヲ定メ其ノ學期間ニ履修シタル範圍

ニ就キ之ヲ施行ス

但シ必要ト認メタル場合ニハ學年ノ始ヨリ當該學期ノ終ニ至ル間ニ履修シタル

範圍ニ就キ之ヲ施行ス

第四十條 臨時試驗ハ受持教員ノ見込ニ依リ隨時之ヲ施行ス

第四十一條 每課目ノ學期評點ハ學期試驗點ニ日課點及臨時試驗點ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第四十二條 每課目ノ學年評點ハ第一第二第三學期評點ヲ合計シタルモノヲ三除シテ之ヲ定ム

但シ第一學期又ハ第二學期ニ於テ授業ヲ完了シタル課目ニアリテハ第一學期評點又ハ第一第二期評點ノ和ヲ二除シタルモノヲ以テ其ノ課目ノ學年評點トス

第四十三條 作文、體操及諸學科實驗、實習ノ學期評點ハ日課點ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得

第四十四條 評點ハ每課目一百ヲ以テ最高點トス

第四十五條 左表ノ條件ニ該當スルモノヲ及第トシ其ノ他ハ落第トス

但シ平素ノ勤惰、行狀及出席ノ情況等ヲ參酌スルモノトス

學年評點平均

學年評點六十以下ノ課目數

學年評點六十以下ノ點數

六十以上		
六十以上	三課目以内	五十以上
六十以上	二課目以内	一課目五十以上 一課目四十以上
六十以上	二課目以内	四十以上 但シ其ノ課目ノ學期評點六十以上ナルコト一回以上
六十以上	總課目數ノ半數以内	五十以上 但シ其ノ課目ノ學期評點六十以上ナルコト一回以上

第四十六條 學期試驗ニ缺席シタル課目ノ學期評點ヲ零トス

但シ缺席ノ理由正當ニシテ當該學期間ニ於ケル缺席時數其ノ授業時數ノ三分ノ

一ニ達セサル者ニ對シテハ他ノ二學期評點ノ百分ノ五十五ヲ附ス又日課點及臨時試驗點ノミニ依リ學期評點ヲ附スルコトヲ得

第四十七條 高等科ノ課程ヲ修了シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證

族籍

校印

何

某

生年月日

右者本校ニ於テ高等科(文)(理)科ノ學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年月日

第二高等學校長位勳學位爵氏

名 印

番號

第六款 授業料

第四十八條 本校生徒ノ授業料ハ一學年金六十五圓トス

但シ大正十一年三月迄ニ入學シタル者ニ在リテハ金四拾圓トシ大正十四年三月迄ニ入學シタル者ニ在リテハ金五拾圓トス

第四十九條 授業料ハ三學期ニ分チテ之ヲ徵收ス其ノ各學期ノ徵收金額及徵收期日

左ノ如シ

但シ徵收期日前ニ納附スルモ妨ナシ

學二期 大正十四年四月 迄ノ入學者 大正十四年三月 迄ノ入學者 大正十一年三月 迄ノ入學者

納付期日

第一學期 金貳拾五圓 金貳拾圓 金拾貳圓

自四月二十五日 至同月二十九日

第二學期 金貳拾五圓 金貳拾圓 金拾六圓

自九月二十五日 至同月二十九日

第三學期 金拾五圓 金拾圓 金拾貳圓

自一月二十五日 至同月二十九日

第五十條 兵役ニ服スル爲休學ノ許可ヲ得タル者ニハ次學期以降ノ分納額ヲ免除シ

其ノ他ノ休學者ニハ其ノ半額ヲ免除ス

第五十一條 第十五條第十六條ニ依ル再入學者第二十七條ニ依ル休學復級者ニ對シテハ其ノ學期ノ授業料全額ヲ徴收ス第二十八條ニ依ル退學者ニ對シテハ其ノ學期ノ授業料全額ヲ徴收ス

第五十二條 既納ノ授業料ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス

第五十三條 授業料ヲ納付期日ニ納メサルトキハ上校ヲ止メ之ヲ保證人ヨリ徴收ス
(ヘシ其ノ未納三週日ニ至ルモノハ退學セシム(第二十九條第八號參照))

第七款 制服

第五十四條 生徒ハ本校制定ノ制服、制帽ヲ着用スヘシ

但シ新入學生徒ハ四月二十五日マテニ制帽ヲ五月十日マデニ制服ヲ着用スヘシ

一 帽 服 制

一 帽 佛蘭西形

色黒

地質絨 帽章金色蜂
白線二條

一 衣 立襟 色黒又ハ紺 地質絨若クハ小倉織

一 袴 色地質共ニ衣ニ同シ

一 外 套 色黒又ハ紺 地質絨

一 略服 立襟 色霜降 地質小倉織

一 略帽 麥稈製 黑色ノ縁ニ二條ノ白線ヲ施シ徽章ハ必ず前面ニ附スヘシ

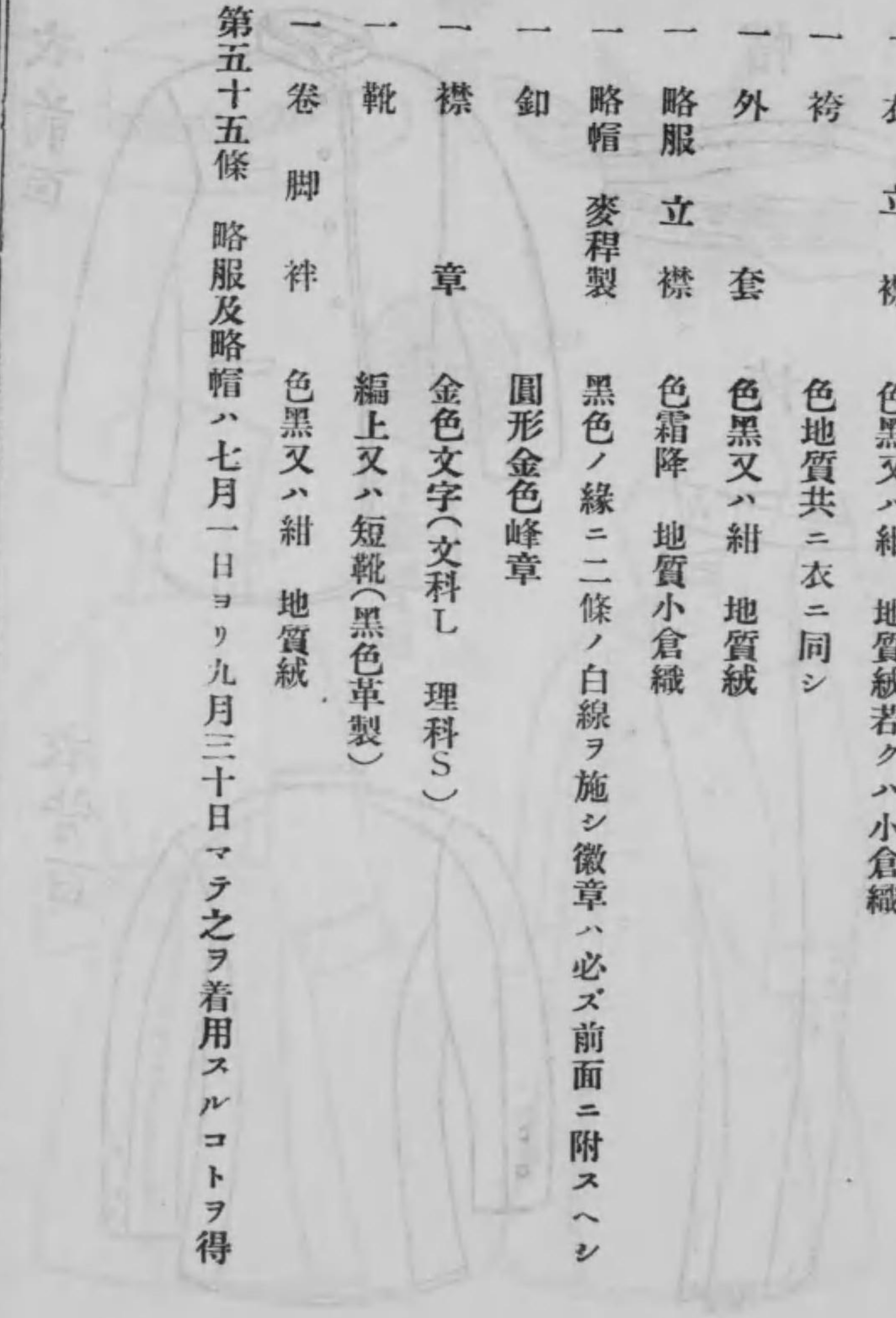
一 釦 圓形金色峰章

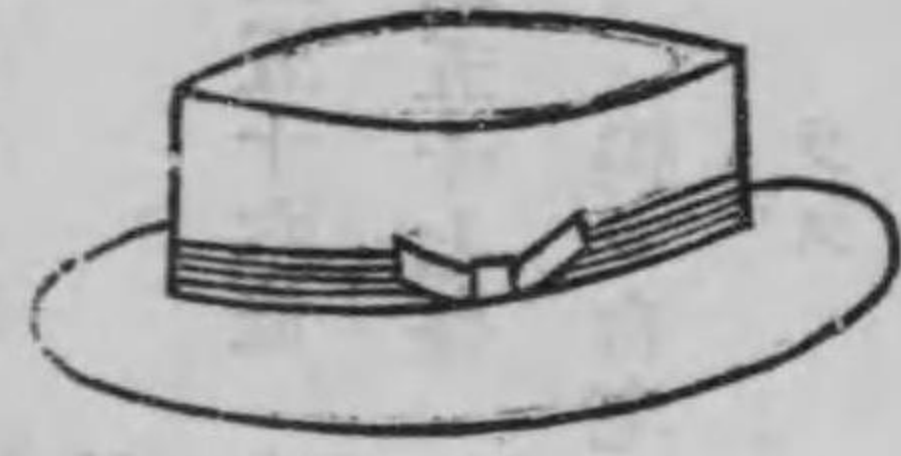
一 襟 章 金色文字(文科L 理科S)

一 靴 編上又ハ短靴(黑色革製)

一 卷 脚 絆 色黒又ハ紺 地質絨

第五十五條 略服及略帽ハ七月一日ヨリ九月三十日マテ之ヲ着用スルコトヲ得





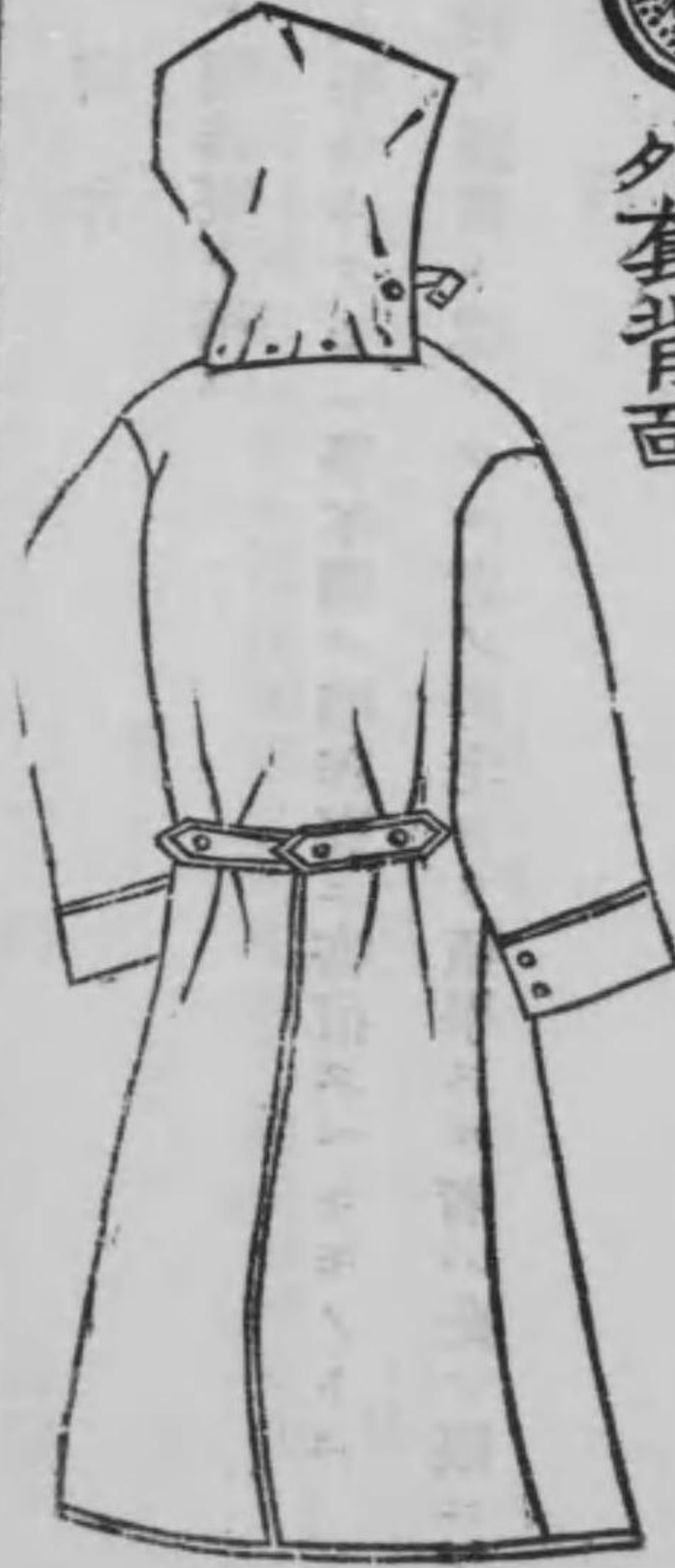
略帽



階徽章



鈕



外套背面



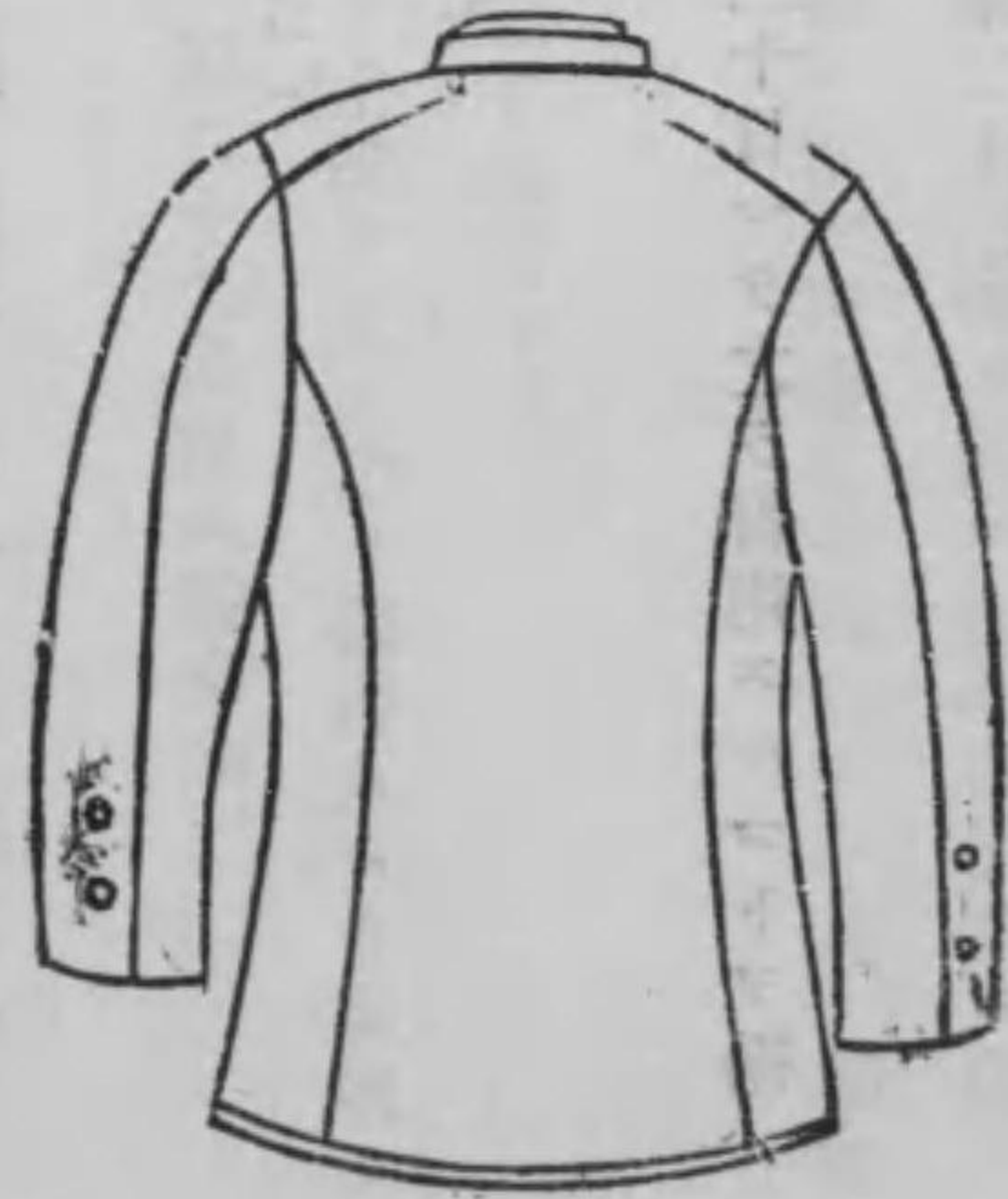
外套前面

帽



衣前面

袴



衣背面

第八款 寄宿舎

第五十六條 本校寄宿舎ハ明善寮ト稱ス

第五十七條 本校生徒ハ入學後少クモ一學年間ハ明善寮ニ寄宿スヘキモノトス

但シ自宅又ハ本校ニ於テ適當ト認メタル者ノ居室ヨリ通學スル者ハ此ノ限ニア

ラス

第五十八條 在寮生徒ニシテ病氣又ハ事故ノ爲缺席セントスル者ハ豫メ生徒監ノ檢

印ヲ受クヘシ

第五十九條 寮費ハ一箇月金貳圓トス毎月十六日ヨリ二十八日マテニ本校會計係ニ

納付スヘシ

但シ月ノ十五日以前ニ退寮シ若クハ十六日以後ニ入寮シタル者ハ半額トシ其ノ

際之ヲ納付スヘシ

第六十條 入寮若クハ退寮セントスルモノハ左ノ書式ニ從ヒ願出ツヘシ

入寮願

何科何年

何

某

右御校寄宿舎明善寮ニ入寮致度候ニ付御許可相成度此段相願候也

右

何

某

年月日

第二高等學校長何某殿

退寮願

何科何年

何

某

右何々ノ事由ニ付何年何月何日退寮致度候間御許可相成度此段相願候也

右

何

某

年月日

第二高等學校長何某殿

第六十一條 在寮生徒ニシテ其ノ本分ニ背キタル行爲アリト認ムルトキハ退寮ヲ命スルコトアルヘシ

第六十二條 在寮生徒ハ寮中ノ規約ヲ定メ生徒監ノ認可ヲ受ケテ之ヲ實行スヘシ

第九款 圖書

第六十三條 本校所有ノ圖書ハ總テ之ヲ圖書館ニ藏ス

第六十四條 圖書館ニ於テハ本校所藏ノモノ、外別ニ定ムル所ノ規定ニ依リ他ノ寄託ニ係ル圖書ヲ藏ス

第六十五條 教員ハ一員二十冊事務員及助手ハ一員五冊ヲ限リ教授上若クハ事務上ノ參考用トシテ圖書ヲ借受スルコトヲ得

但シ教授上必要ノ場合ニ於テハ學校長ノ特許ヲ得テ本條制限外ノ圖書ヲ借受スルコトヲ得

第六十六條 借受ノ冊數ハ洋裝ノモノニ就テ之ヲ定メ和漢裝ノモノハ三冊ヲ以テ一冊ニ充テ圖書等ノ幅若クハ折本ハ一幅或ハ一折ヲ以テ一冊トナシ通算スルモノトス

第六十七條 授業上若クハ校務上ノ必要ニヨリ教員室、教室、實驗室、事務室ニ備附クル圖書ハ第六十五條ノ制限外トス

第六十八條 生徒教科用ノ圖書ヲ購讀スルコト能ハサル者ニハ願ニ依リ本校所藏ノ圖書ヲ貸付スルコトアルヘシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ其ノ受持教員ノ保認ヲ要ス

第六十九條 貴重圖書、辭書類及閱覽室備附ニ缺クヘカラサル圖書ハ總テ借受スルヲ許サス

但シ學校長ノ特許ヲ得タル場合ハ此ノ限ニアラス

第七十條 圖書ヲ借受セントスル者ハ自ら圖書館ニ至リ定式ノ證書用紙ヲ受取り之

ニ書名、冊數、番號、姓名、年月日ヲ詳記シ捺印シタル證書ヲ係員ニ差出スヘシ

第七十一條 借受シタル圖書ハ他人ニ轉貸スルヲ許サス

第七十二條 閱覽室備附ノ定時刊行ノ雜誌等ハ校用ヲ除クノ外到着ノ日ヨリ二週日ヲ過クルニ非ラサレハ館外ニ携出スルヲ許サス

第七十三條 夏期休業中生徒所用ノ教科用圖書ヲ借受セントスルトキハ受持教員ノ保認ヲ經テ二冊ヲ限リ借受スルコトヲ得

第七十四條 借受シタル圖書ハ每學年ノ終ニ於テ指定ノ期日マテニ悉皆返納セシム

但シ時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第七十五條 借受シタル圖書ヲ紛失シタルトキハ同一ノ圖書ヲ以テ之ヲ償ハシム

第七十六條 借受シタル圖書ヲ毀損シ若クハ汚染シタルトキハ其ノ情況ニヨリ借受者ヲシテ之ニ修繕ヲ加ヘシメ若クハ同一ノ圖書ヲ以テ之ヲ償ハシム其ノ故意ニ出テタルモノハ圖書ノ貸付ヲ停止スルコトアルヘシ

第七十七條 圖書館内ニ閱覽室ヲ設ケ職員及生徒ノ圖書ヲ閱覽スル所トス

但シ第六十四條ノ寄託者及其ノ指定人ニハ閱覽室ニ入ルヲ許スコトアルヘシ

第七十八條 閱覽室ハ休日ヲ除クノ外毎日之ヲ開ク

但シ開閉時限ハ時々之ヲ告示シ休日ト雖モ特ニ開館スルトキハ其ノ都度之ヲ告示スヘシ

第七十九條 圖書係員、教員並ニ第七十七條ニ於テ特ニ許可シタル者ノ外ハ書庫ニ入リ圖書ヲ檢索シ及出納スルヲ得ス

第八十條 閱覽室備付ノ圖書ハ閱覽室外ニ携出スルヲ禁ス

但シ職員ノ校務用若クハ授業用ノ爲メ携出ヲ要スルトキハ係員ノ承認ヲ得テ一日限之ヲ其ノ詰所若クハ教室ニ携出スルコトヲ得

第八十一條 生徒及特許閱覽者ノ圖書貸付並閱覽ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十款 器 械

第八十二條 本校所藏ノ學術用器械ハ授業上並實習上ノ用ニ供スル爲メ各教室及實驗室ニ備附ナルモノトス

第八十三條 生徒ハ受持教員ノ指示ニ從ヒ實習用ノ器械ヲ借受使用スルコトヲ得

但シ其ノ他ノ機械ハ受持教員ノ許可ヲ經ルニアラサレハ一切之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八十四條 生徒自修ノ爲メ器械ヲ室外ニ借受携出セントスル者ニハ願ニ依リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

但シ本條ノ場合ニ於テハ受持教員ノ保認ヲ要ス

第八十五條 前條ニ依リ生徒ニ器械ノ貸付ヲ許ストキハ一學期毎ニ規定ノ借料ヲ前納セシム

第八十六條 借料ハ每學期指定ノ期日ニ本校會計係ニ納附スヘシ

第八十七條 定日ニ於テ借料ヲ納附セサルトキハ上校ヲ止メ之ヲ保證人ヨリ徴收ス

ヘシ

第八十八條 學期中半途器械ヲ借受スルモ全學期間ノ借料ヲ徴收スルハ勿論半途之ヲ返納スルモ既納ノ借料ハ返附セス

第八十九條 生徒器械ヲ借受セントスルトキハ名稱、個數、氏名、年月日等ヲ借受簿ニ詳記シ捺印ノ上受持教員若クハ助手ニ差出スヘシ

但シ第八十三條ノ場合ニ於テハ更ニ其ノ借受證書ヲ出スモノトス

第九十條 借受シタル器械ハ他人ニ轉貸スルコトヲ許サス

第九十一條 夏季休業中生徒自習ノ爲メ教科用器械ヲ借受セントスルトキハ受持教員ノ保認ヲ經テ借受スルコトヲ得

第九十二條 借受シタル器械ハ每學年ノ終ニ於テ期日マテニ悉皆返納スヘシ

但シ時宜ニ依リ臨時ニ返納セシムルコトアルヘシ

第九十三條 借受期限ヲ經過スルモ尙ホ返納セサル者ニハ次學期間機械ヲ貸付セサ

ルコトアルヘシ

第九十四條 借受シタル器械ヲ毀損若ハ紛失シタル者ハ其ノ情况ニ依リ修繕ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ器械ヲ以テ之ヲ償ハシム
但シ本條ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ理由ヲ詳記シ受持教員ニ届出ツヘシ

第五章 細 則

第一款 校務分掌規程(三十五年九月及四十四年十一月及大正八年九月改正)

- 第一條 本校ノ事務ヲ分チテ教務庶務會計圖書及生徒監督ノ五部トス
- 第二條 教務部ニ教頭ヲ庶務部ニ幹事ヲ圖書部ニ圖書長ヲ置キ生徒監督部ハ生徒監督ヲ管理ス
- 第三條 教頭幹事及圖書長ハ教授中ヨリ學校長之ヲ命ス
- 第四條 教頭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ整理シ教育ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル
- 第五條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ管理ス
- 第六條 圖書長ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ圖書一切ニ關スル事ヲ掌ル
- 第七條 生徒監督ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ一般生徒ノ訓育ニ關スル事ヲ掌ル
- 第八條 教務部ニ學科主任及級長ヲ置ク

第九條 學科主任ハ教授中ヨリ學校長之ヲ命ス

第十條 學科主任ハ學校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ該學科授業ニ關スル一切ノ事務ヲ掌
リ兼テ校務重要ノ件ニ參與ス

第十一條 級長ハ教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

第十二條 級長ハ學校長及教頭ノ指揮ヲ受ケ受持生徒ヲ監督誘掖スルコトヲ掌ル

第十三條 各學科教員ハ學校長教頭及其ノ學科主任ノ監督ニ屬シ生徒教育ノ事ヲ掌
ル

第十四條 各學科主任及級長ノ擔任スヘキ要項左ノ如シ

學科主任

修身科

一 修身ノ授業ニ關スルコト

國語及漢文科

一 國語及漢文ノ授業ニ關スルコト

英語科

一 英語ノ授業ニ關スル事

獨語科

一 獨語ノ授業ニ關スル事

歴史及地理科

一 歴史及地理ノ授業ニ關スル事

數學科

一 數學ノ授業ニ關スル事

物理科

一 物理ノ授業ニ關スル事

哲學科

一 心理論理及哲學概説ノ授業ニ關スル事

 法制及經濟科

一 法制及經濟ノ授業ニ關スル事

 化學科

一 化學ノ授業ニ關スル事

 植物及動物科

一 植物及動物ノ授業ニ關スル事

 礦物及地質科

一 礦物及地質ノ授業ニ關スル事

 圖書科

一 圖書ノ授業ニ關スル事

 體操科

一 體操ノ授業生徒ノ身體検査及諸運動ニ關スル事

級長

一 受持生徒ノ勤惰、行狀ニ關スル事

二 受持生徒ノ心得方並訓戒ニ關スル事

三 受持生徒ノ出席ニ關スル事

四 受持生徒ノ試験成績ニ關スル事

五 受持生徒教室ノ整頓及教室ノ備品保管ニ關スル事

六 受持生徒ノ入學、退學及休學ニ關スル事

七 其ノ他受持生徒ニ關スル一切ノ事項

第十五條 教務部庶務部會計部圖書部及生徒監督部ニ各係ヲ置キ各係ニ主任ヲ置ク

第十六條 教務係庶務係圖書係及會計係ノ主任ハ書記ノ中ヨリ生徒監督係ノ主任ハ

教官中ヨリ學校長之ヲ命ス

第十七條 教務係主任ハ上官ノ命ヲ承ケ教務ニ従事シ教頭ノ監督ニ屬ス

第十八條 庶務係主任ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事シ幹事ノ監督ニ屬ス

第十九條 會計係主任ハ上官ノ命ヲ承ケ會計ニ従事ス

第二十條 圖書係主任ハ上官ノ命ヲ承ケ圖書ノ事務ニ從ヒ圖書長ノ監督ニ屬ス

第二十一條 生徒監督係主任ハ上官ノ命ヲ承ケ生徒ノ訓育及取締ニ従事シ生徒監ノ

監督ニ屬ス

第二十二條 教務係庶務係會計係圖書係及生徒監督係ノ擔任スヘキ要項左ノ如シ

教 務 係

一 教室及日課ニ關スル事

二 成績表ニ關スル事

三 生徒ノ入學在學退學及休學ニ關スル事

四 生徒ノ學籍ニ關スル事

五 生徒ノ試験進級卒業ニ關スル事

六 生徒ノ身體検査ニ關スル事

七 生徒ノ出席調査及其ノ報告ニ關スル事

八 生徒ノ願届ニ關スル事

九 生徒ノ學力品行等ノ證明ニ關スル事

十 生徒ノ徴兵ニ關スル事

十一 教務係ニ屬スル文書ノ起案ニ關スル事

十二 高等科學力檢定ニ關スル事

十三 教科用書ニ關スル事

十四 教員室教室ノ設備及其ノ物品ノ保管ニ關スル事

十五 教授會ニ關スル事

十六 其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

庶務係

- 一 御影及勅語ノ保管ニ關スル事
- 二 校長官印及校印ノ監守ニ關スル事
- 三 校旗ノ保管ニ關スル事
- 四 規則及命令ニ關スル事
- 五 儀式ニ關スル事
- 六 職員ノ進退身分及服務ニ關スル事
- 七 職員ノ出勤調査及其ノ報告ニ關スル事
- 八 職員ノ願届ニ關スル事
- 九 外國教師ニ關スル事
- 十 庶務係ニ屬スル文書ノ起案ニ關スル事
- 十一 公文書類ノ保存整理ニ關スル事

- 十二 文書ノ接受及發送ニ關スル事
- 十三 一覽及報告ニ關スル事
- 十四 宿直及校門ノ開閉等ニ關スル事
- 十五 寄附物品ノ接受及賞與申請ニ關スル事
- 十六 卒業生ノ大學進入ニ關スル事
- 十七 教員無試験檢定願ニ關スル事
- 十八 評議員會ニ關スル事
- 十九 他ノ係ニ屬セサル一切ノ事項

會計係

- 一 會計係ニ屬スル文書ノ起案及保存整理ニ關スル事
- 二 經費ノ豫算及決算ニ關スル事
- 三 金錢出納ニ關スル事

- 四 會計帳簿ノ整頓ニ關スル事
 - 五 需用品ノ收支ニ關スル事
 - 六 圖書機械器具其ノ他物品一切ノ調製及購入ニ關スル事
 - 七 地所、建物ニ關スル事
 - 八 家屋ノ修繕其ノ他工事ニ關スル事
 - 九 小使及傭夫ノ使役ニ關スル事
 - 十 校内ノ警備及衛生ニ關スル事
 - 十一 校内ノ洒掃ニ關スル事
 - 十二 其ノ他會計ニ屬スル一切ノ事項
- 圖書係
- 一 圖書係ニ屬スル文書ノ起案ニ關スル事
 - 二 圖書ノ購入及修繕ニ關スル事

- 三 圖書ノ保存整頓出納及貸附等ニ關スル事
- 四 圖書ノ帳簿ニ關スル事
- 五 圖書ノ印ヲ保管スル事
- 六 閱覽室ノ取締ニ關スル事
- 七 其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

生徒監督係

- 一 生徒監督係ニ關スル文書ノ起案ニ關スル事
- 二 生徒ノ勤惰操行ニ關スル事
- 三 生徒ノ取締ニ關スル事
- 四 生徒ノ宿所調査ニ關スル事
- 五 生徒ノ宿所ヲ巡視スル事
- 六 生徒ノ賞罰ニ關スル事

- 七 寄宿寮ノ設備ニ關スル事
- 八 生徒ノ入退寮ニ關スル事
- 九 寄宿生徒ノ監督ニ關スル事
- 十 寄宿寮ノ警備及衛生ニ關スル事
- 十一 生徒學資ノ保管ニ關スル事
- 十二 其ノ他生徒ノ訓育及監督ニ關スル一切ノ事項

第二款 學校醫服務規程(大正九年十一月改正)

- 第一條 校醫ハ學校及寄宿舎ノ衛生ニ關スル職務ニ従事ス
- 第二條 校醫ハ每週三回出勤シテ一定ノ時限服務スヘシ
- 第三條 校醫ハ毎年四月全校生徒ノ身體検査ヲナスヘシ
- 第四條 校醫ハ衛生上備付ノ藥品及器具機械ヲ保管スヘシ
- 第五條 前各條ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタルトキハ校醫ハ臨時出勤シテ生徒疾

病ノ診斷身體ノ検査及衛生ニ關スル事務ヲ執ルヘシ

第三款 教授會規程

- 第一條 本會ハ教授ヲ以テ組織シ學校長之カ議長トナル
- 第二條 本會ノ審議スヘキ要件左ノ如シ
 - 一 學科課程ニ關スル件
 - 二 試験及其ノ他成績ニ關スル件
 - 三 書籍、機械、標本等ノ設備ニ關スル件
 - 四 前項ノ外臨時學校長ノ諮問事項
- 第三條 諮問事件ニ關シ講師助教授又ハ囑託教員ノ意見ヲ詢フ必要アルトキハ特出ニ席ヲ需ムヘシ

第四款 評議員會規程

- 第一條 本校ニ評議員會ヲ置ク
- 第二條 評議員會ハ評議員若干名ヲ以テ組織ス

第三條 評議員ハ本校教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス
 第四條 評議員會ハ學校長ノ諮問ニ應シテ意見ヲ述フ
 第五條 必要ノ場合ニ於テハ評議員以外ノ職員ヲシテ列席セシムルコトアルヘシ
 第六條 評議員會ハ隨時之ヲ開ク

第五款 生徒總代規程

第一條 各組ニ正副總代二名ヲ置ク
 第二條 總代ハ其ノ組生徒ヲシテ互選セシメ學校長之ヲ命ス
 但シ第一年級ニアリテハ第一學期ニ限り互選ヲ用ヒス學校長之ヲ命ス
 第三條 總代ハ當該組ノ風紀ニ注意シ校規命令ノ實行ヲ務メ教室内ノ秩序及清潔ヲ保持スヘシ

第四條 總代ノ任期ハ一學年間トス

第六款 生徒通學規程(大正九年十一月改正)

第一條 本校生徒ハ左ノ書式ニ從ヒ毎年四月六日ヨリ同月三十日迄ニ其ノ宿所ヲ届出ツヘシ

但シ自宅若クハ本校職員ノ宅ヨリ通學スル者ハ單ニ其ノ宿所ノミヲ届出ツヘシ

現 及族家ノ在現				現宿所 主人	保證人	宿 所 届			
				住所何(郡)市何町(村)何番地 氏	住所仙臺市何町何番地 氏	氏 名	年 齡	職 業	關 係
同	同	同	同	何 氏	何 氏	何 名	何 歲	何 々	生徒父兄ノ何
同	同	同	同	何 氏	何 氏	何 名	何 歲	何 々	生徒父兄ノ何
同	同	同	同	何 氏	何 氏	何 名	何 歲	何 々	現宿所主人ノ何
同	同	同	同	何 氏	何 氏	何 名	何 歲	何 々	何 々

宿 者宿同人雇

同	同	同
何 歳	何 歳	何 歳
何 々	何 々	何 々
同	同	同

右及御届候也

何科何年何組

年 月 日

保 證 人 氏 氏 氏
 現 宿 舎 主 氏 氏 氏
 名 名 名
 印 印 印

第二高等學校長宛

注意 現宿所ノ家族住所又ハ雇人同宿者ニ異動アルトキハ更ニ速ニ届出ツヘシ

第二條 生徒轉宿セシトキハ速ニ更ニ前條ノ届出ヲナスヘシ

第三條 生徒ハ其ノ宿所ノ門戸ニ左式ノ本校所定ノ標札ヲ掲クヘシ

長サ五寸五分

巾一吋五分

○ 蜂 燒 印 何 某

第四條 本校ニ於テ生徒ノ宿所不適當ナリト認ムルトキハ直チニ轉宿セシムルコトアルヘシ

第五條 標札ハ生徒監督係ヨリ交付スヘキニ付毎年四月六日ヨリ同月三十日マテニ各宿所ノ門戸ニ掲クヘシ

第六條 本校ノ學籍ヲ脱シタルトキ又ハ休學中ノモノニシテ一時仙臺市ヲ退去スルトキハ速ニ標札ヲ生徒監督係ニ返付スヘシ

第七款 行軍規程(大正九年十一月改正
大正十四年六月一部改正)

- 第一條 行軍ハ毎年一回之ヲ施行ス
- 第二條 行軍ハ第二學期ニ於テ之ヲ施行シ其ノ日數ヲ四日以内トス
- 第三條 行軍ハ生徒總員ノ三分ノ一以上缺課スルトキハ之ヲ施行セス
- 第四條 正當ノ理由ナクシテ行軍ニ缺課スルモノハ相當ノ處分ヲナスヘシ
- 第五條 行軍ニ關スル諸令ハ其ノ都度之ヲ定ム
- 第六條 生徒ハ左ノ行軍費ヲ授業料ト同時ニ行軍費會計係ニ納付スヘシ
- 第一學期 四月 金壹圓五拾錢
- 第二學期 九月 金壹圓五拾錢
- 第七條 既納ノ行軍費ハ行軍ニ缺課スルモ之ヲ返付セス
但シ休學ノ爲缺課シタル場合ニハ此ノ限ニアラス
- 第八條 行軍實費ニ剩餘ヲ生シタル場合ハ卒業ノ際之ヲ返付ス
但シ此ノ場合金五拾錢ヲ以テ單位トシ單位未滿ハ切り捨ツルモノトス

- 第九條 行軍施行ノ際行軍實費ニ不足ヲ生シタルトキハ之ヲ追徴スルコトアルヘシ
但シ行軍費剩餘金ヲ以テ支辨シ得ルトキハ之ヲ徴收セス
- 第十條 野外演習其ノ他行軍ニ進スヘキ事業又ハ生徒一般ニ關スル事業ニシテ費用ヲ要スルモノアル時ハ行軍費剩餘金中ヨリ之ヲ支辨スルコトアルヘシ
- 第八款 物品會計規程施行細則

總 則

- 第一條 本校物品會計ハ物品會計規則及文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ本細則ニ依リ處理スヘシ
- 第二條 備品消耗品ノ種別ハ概ネ左ノ標準ニ據ルヘシ
- 一 備 品
永久ノ使用ニ耐ヘ其ノ性質形狀ヲ變スルコトナク其ノ用ヲ爲スモノ
- 二 消 耗 品

消耗ヲ目的トスルモノ及其ノ性質備品ニ該當スト雖モ硝子製粗製磁器薄鐵板製等ニシテ使用頻繁一年以上使用ニ耐ヘスト認ムルモノ

第三條 備品中木質ノモノ及之ニ類似ノモノニ在リテハ總テ番號ヲ烙記シ其ノ他金屬製磁製硝子製ノモノニ在リテハ番號札ヲ付スルモノトス但シ品質又ハ使用ノ目的ニ依リ記號シ難キモノハ此ノ限ニアラス

出 納

第四條 通常所用ノ備品及消耗品ハ年度ノ始ニ於テ既往ノ所用高ト其ノ年度間ノ狀況ヲ斟酌シ其ノ員數ヲ豫定シテ購入シ之ヲ倉庫ニ藏置シ請求ニ應シテ支給ノ手續ヲナスヘシ

但シ臨時所要ノ物品ハ其ノ都度購入ノ手續ヲナシ受入ノ後之ヲ支給スヘシ

第五條 物品又ハ物品ノ修理ヲ請求セントスルトキハ所定ノ用紙ニ品名數量使用若クハ修理ヲ要スル事由ヲ詳記シ會計係ニ請求スヘシ

第六條 會計係ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ學校長ノ裁決ヲ經テ場合ニヨリテハ其ノ數量ヲ減シ又ハ請求ニ應セサルコトヲ得

第七條 物品ヲ交付セントスルトキハ備品ハ總テ物品監守者ノ保管ニ付シ消耗品ハ請求者ニ交付シテ領收書ヲ徴シ若クハ支給簿ニ領收印ヲ捺セシムヘシ

第八條 各室ノ保管ニ屬セサル不用品ハ會計係ニ於テ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルモノハ之ヲ保存シ使用ノ見込ナシト認メタルモノハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第九條 不用品ヲ拂下ケントスルトキハ會計係ニ於テ調書ヲ作り學校長ノ裁決ヲ經テ處理スヘシ

但シ拂下物品ハ代價領收後物品領收證書ト引換ニ現品ヲ交付スヘシ
保管及監督

第十條 供用物品ノ監守及取扱ニ關スル責ニ任セシムル爲各特別教室及各係ニ監守

主任一名取扱主任一名ヲ置ク

但シ専用者之ヲ監守シ其ノ責ニ任スヘシ

第十一條 物品監守者ハ各特別教室ニアリテハ主任教授各係ニアリテハ當該主任ヲ以テ之ニ充ツ物品取扱主任ハ助教授及書記以下ヨリ之ヲ任命ス

第十二條 過誤怠慢ニ因シ其ノ保管ニ係ル物品ヲ亡失毀損シタルトキハ速ニ其ノ實況ヲ詳記シタル始末書ヲ作り會計係ヲ經由シテ學校長ニ具申スヘシ

第十三條 物品監守者交迭ノ場合ハ前任者及後任者ニ於テ監守簿ニ對照シ物品會計官吏立會ノ上引繼ヲナスヘシ

第十四條 甲者ノ監守スル物品ニシテ不用ニ歸シタルモノ乙者ニ於テ必要ナルトキハ甲乙監守者ヨリ其ノ旨會計係ニ通知シ相當ノ手續ヲ經テ現品ノ授受ヲ了スヘシ
第十五條 使用ノ結果自然破損シタル物品アルトキハ現品ヲ添へ會計係ニ其ノ修理ヲ請求スヘシ

第十六條 各室ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ速ニ會計係ニ返付スヘシ豫備ノ名ヲ以テ之ヲ留置クコトヲ得ス

第十七條 物品會計官吏ハ毎年一回以上各監守者ニ就キ物品出納簿ト對照シタル監守簿ヲ以テ現品ヲ査閲シ異狀ヲ認メタルトキハ其ノ旨學校長ニ具申スヘシ

帳簿及用紙

第十八條 物品ノ出納ヲ明確ナラシムル爲メ左ノ帳簿及用紙ヲ設ク

一 備品出納簿

器具ノ部

出納命令書ノ發行順ニ依リ各品目別ニ登記ス

一 同 上

機械標本ノ部

出納命令書ノ發行順ニ依リ各學科別ニ累次登記ス

一 同 上

圖書ノ部

圖書原簿ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 消耗品出納簿
- 一 物品監守簿
- 但シ甲式ハ器具ニ乙式ハ機械標本ニ用フ
- 一 在庫品明細簿
- 一 消耗品支給命令簿
- 但シ在庫品ヨリ支給スルモノニ用フ
- 一 物品出納命令書用紙 請求書及領收證接續ノモノ
- 一 專用品保管證用紙
- 一 物品處分用紙
- 但シ物品ノ廢棄、賣却、組替、訂正等ニ用フ

物品檢閲

第十九條 學校長ハ物品檢閲委員長一名委員若干名ヲ設ケ本校ノ物品ヲ檢閲セシム

第二十條 物品檢閲委員長及委員ハ毎年四月之ヲ任命ス

第二十一條 檢閲ノ順序方法ハ其ノ都度委員長ニ於テ指定スヘシ

第二十二條 檢閲ノ日時ハ豫メ委員長ヨリ各物品監守者又ハ取扱主任ニ通牒スヘシ

第二十三條 物品檢閲委員ノ検査スヘキ要領左ノ如シ

- 一 物品保管ノ適否
- 一 備品使用ノ適否
- 一 物品缺損ノ有無
- 一 消耗品消費ノ適否

第二十四條 在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏又ハ代理者使用中ノ物品ニ就テハ物品監守者又ハ物品取扱主任立會ノ上物品ノ檢閲ヲ爲シ物品會計官吏又ハ監守者取扱主任ハ物品檢閲委員ノ質問ニ應スヘシ

第二十五條 物品檢閲委員ハ檢閲上故障ナキトキハ監守簿ニ檢閲済ノ檢印ヲナスヘ

シ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ顛末書ヲ徵シ物品檢閱委員長ノ意見ヲ具ヘテ學校長ニ申報スヘシ

第二十六條 物品檢閱委員ハ檢査終リタルトキハ檢閱ノ狀況及物品一般ニ就テノ意見ヲ具ヘ九月末日マテニ委員長ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

第九款 生徒圖書閱覽細則(大正九年十一月同十一年五月改正)

第一條 閱覽室ハ左ノ休日ヲ除ク外毎日午前八時ヨリ午後九時マテ之ヲ開ク

但シ土曜日ハ午後四時閉館日曜日ハ午後六時開館同九時閉館臨時ノ開閉時限ハ其ノ都度之ヲ告示ス

一日 曜日

一 祭日及祝日

一 本校開校記念日 (十月二十六日)

一 春季休業 (三月十六日ヨリ四月五日ニ至ル)

一 夏季休業 (七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル)

一 冬季休業 (十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル)

第二條 圖書借覽ノ證トシテ閱覽票ヲ設ケ毎學年始メ圖書係ニ於テ新入學者ニ之ヲ交付ス

第三條 閱覽票ハ他人ニ轉貸スルコトヲ禁ス

閱覽票ヲ紛失シタルトキハ速ニ其ノ旨圖書係ニ届出ツヘシ

第四條 閱覽票再下附出願ノ者ハ定式ノ用紙ニ所要事項ヲ記入シ捺印ノ上願出ツヘシ

第五條 生徒閱覽室ニ入場ノ際ハ閱覽票ヲ係員ニ差出シ置キ退場ノ際之ヲ受取ルヘシ

第六條 圖書ヲ借覽セントスル者ハ定式ノ閱覽證用紙ニ所要事項ヲ記入シ係員ニ差出スヘシ但シ閱覽ヲ了ラハ直チニ返納スヘシ

- 第七條 一人ニテ借覽シ得ヘキ圖書ノ部數及冊數ハ便宜之ヲ制限スルコトアルヘシ
- 第八條 借受セル圖書ハ閱覽室外ニ携出スルコトヲ禁ス
- 第九條 圖書ノ種類ニヨリテハ閱覽ヲ許サル、コトアルヘシ
- 第十條 閱覽室ニ入ル者ハ左ノ各號ヲ確守スヘシ
 - 一 閱覽室ニ於テハ喫煙談話音讀並二人以上相會シテ溫習ヲナス等凡テ他人ノ障
碍トナル舉動ヲ禁ス
 - 二 閱覽室ニハ圖書筆紙墨類ノ外物品ヲ携帶スヘカラス
 - 三 閱覽室ニ於テハ制服又ハ袴ヲ着用スヘシ
 - 四 閱覽室備付卓子椅子等ノ位置ヲ濫リニ變更スヘカラス
- 第十一條 借受セル圖書ハ鄭重ニ取扱フヘシ若シ汚損又ハ紛失シタルトキハ速ニ届
出テ係員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第十二條 本細則ニ違背シタル者ハ一定ノ期間ヲ限リ圖書ノ閱覽ヲ停止スルコトア
ルヘシ

第十款 圖書閱覽特許規定(大正九年十一月改正)

- 第一條 本校職員生徒以外ノ者ト雖モ學校長ニ願ヒ出テ特許ヲ得タル者ハ本校所藏
ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得
- 第二條 閱覽特許ヲ願出ツルモノハ本校職員若クハ本校ニ於テ適當ト認ムル者ノ紹
介ヲ經テ左ノ書式ニ依リ願書ヲ圖書係ニ差出スヘシ

圖書閱覽特許願

右ハ御校御所藏ノ圖書ヲ閱覽致度候ニ付キ紹介者連署ヲ以テ此段相願候也

現住所職業
右本人 氏 名
現住所職業
氏 名 印

年 月 日

第二高等學校長何某殿

紹介者 氏 名 印

第三條 特許閱覽者ノ員數ハ本校ノ都合ニ依リ制限スルコトアルヘシ

第四條 閱覽特許ヲ得タル者ニハ本校圖書係ヨリ圖書閱覽票ヲ交付ス

但シ特許閱覽票ノ有効期間ハ當該學年間トス

第五條 特許閱覽者ハ本校圖書館内閱覽室ニ於テ閱覽スヘシ

第六條 閱覽室ハ左ノ休日ヲ除ク外毎日午前八時ヨリ午後九時マテ之ヲ開ク

但シ臨時開閉ハ其ノ都度之ヲ告示ス

一日 曜日

一 祭日及祝日

一 本校開校記念日 (十月二十六日)

一 春季休業 (三月十六日ヨリ四月五日ニ至ル)

一 夏季休業 (七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル)

一 冬季休業 (十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル)

第七條 特許閱覽者閱覽室ニ入場ノ際ハ閱覽票ヲ係員ニ差出シ退場ノ際之ヲ受取ルヘシ

第八條 閱覽ノ際ハ係員ヨリ交付スル定式ノ用紙ニ書名番號及姓名等ヲ記シタル閱覽證ヲ係員ニ出シテ所用ノ圖書ヲ借受シ閱覽終リタルトキハ該圖書ヲ直チニ係員ニ返付スヘシ

第九條 特許閱覽者ハ閱覽ニ關スル時々ノ告示ニ注意シ其ノ趣旨ヲ嚴守スヘシ

第十條 特許閱覽者借受シタル圖書ヲ毀損シ若クハ汚染シタルトキハ其ノ情況ニヨリ修繕ヲ加ヘ若クハ之ヲ償ハシム

第十一條 特許閱覽者ニシテ前條ノ義務ヲ果タサハルトキハ紹介者ハ之ニ代リテ其ノ責ニ任スルモノトス

第十二條 特許閲覧者ニシテ不都合ノ行爲アルトキハ學校長ハ直チニ特許ヲ取消スヘシ

第十一款 圖書寄託規程

第一條 本校圖書館ニ於テ閲覧ニ供シ若クハ保管ヲ請フノ目的ヲ以テ圖書ヲ寄託セントスル者アルトキハ其ノ事情ニヨリ之ヲ承諾ス

第二條 圖書ヲ寄託セントスル者ハ其ノ事由目録員數及寄託期限等ヲ詳記シテ本校ニ願出テ承諾ヲ經タル後其ノ圖書ヲ送致スヘシ

第三條 寄託者ハ寄託圖書ニ所有者ノ印章ヲ捺スヘシ

第四條 寄託ノ圖書ハ本校圖書館所藏ノ圖書ト同様ノ取扱ヲナス

但シ寄託者ノ希望ニヨリテ特別ノ取扱ヲナスコトアルヘシ

第五條 寄託圖書ハ一切圖書館以外ニ帶出スルコトヲ許サス

第六條 不慮ノ災難ニヨリテ寄託圖書ノ損敗失亡ヲ來スコトアルモ本校ハ其ノ責ニ

任セス

第十二款 防火警備心得

第一條 本校並本校ヨリ距離凡三丁以内ニ失火アルトキ若クハ其ノ以外タリトモ延焼ノ虞アリト認ムルトキハ職員生徒及備人ハ直チニ出校スヘシ

但シ當日疾病ニ罹リ出校シ難キ者ハ其ノ旨届出ツヘシ

第二條 執務時間中前條ノ事變アルトキハ庶務係ハ警鐘ヲ連打シテ非常ヲ報スヘシ

第三條 非常警鐘ノ報アルトキハ生徒監督係ハ臨機適宜ノ場所ニ生徒ヲ召集シ事務員ハ當該係ノ緊要書類ヲ取纏メ共ニ防火警備ニ従事スヘシ

第四條 會計係ハ邸内取締及小使消防人足等ヲ指揮監督シ消防ニ従事スヘシ

第五條 庶務係ハ火災ノ爲メ參集セシ本校職員及諸官衙職員其ノ他出入諸商工等ノ氏名ヲ記録シ生徒監督係ハ生徒ノ人員ヲ點檢シ孰レモ翌日迄ニ之ヲ學校長ニ申報スヘシ

第六條 執務時間外ニ於テ前條ノ事變アルトキハ宿直員ハ先ツ警鐘ヲ以テ非常ヲ報シ且直チニ各係緊要ノ書類ヲ取纏メ當該主務員ノ出校スル迄内外ノ指揮監督ニ從事スヘシ

第七條 仙臺市内ニ失火アルトキハ庶務係若クハ會計係(執務時間外ハ宿直員)ハ火元取調ノ爲メ速ニ小使一名ヲ差遣スヘシ若シ本校職員ノ宅又ハ其ノ近火ナルトキハ警備ノ爲メ小使二名差遣スヘシ

第六章 職員

學校長

文學士

岡野義三郎

大阪

名譽教授

粟野健次郎

岩手

教授

評議員

文學士

玉蟲一郎

宮城

英語

文學士

岡澤鉦治

長野

英語

文學士

土井林吉

宮城

獨語

文學士

小池堅治

東京

獨語

文學士

登張信一郎

廣島

圖書

(在外研究中)
評議員 第三高等學校

文學士

神門久太郎

鳥根

心理及論理、獨語

評議員

文學士

村木維夫

岩手

化學、自然科學(化學)

評議員

理學士

加納清三

東京

獨語	(在外研究中)	文學士	佐久間政一	千葉
歷史	評議員	文學士	阿刀田令造	宮城
英語	生徒監	文學士	鈴木紀一郎	宮城
漢文		文學士	小西兵太郎	東京
英語		文學士	佐治秀壽	福島
漢文		文學士	板原瑛夫	和歌山
國語		文學士	高木尙介	山口
歷史、地理		文學士	濱田廉	愛媛
獨語		文學士	萩庭三壽	茨城
修身、哲學概說		文學士	白井成允	岩手
獨語、心理		文學士	栗林宇一	秋田
物理、力學		理學士	庄司彦六	山形

物理		理學士	佐藤充	徳島
動物、自然科學(生物)		理學士	長倉快一郎	静岡
數學		理學士	大石喬一	静岡
鑛物及地質、自然科學(地質)		理學士	吉井正敏	熊本
獨語		文學士	栗田豊	東京
數學	生徒監	理學士	田中保房	新潟
數學		理學士	市原哲治	福島
法制及經濟		經濟學士	楠井隆三	和歌山
植物		理學士	松浦一	東京
獨語		文學士	志賀悌輔	福島
配屬將校				
體操		陸軍歩兵中佐	平野博成	鹿兒島

備外國人教師

獨語

ゲオルグ・ウエルフェル
Georg Wülfel 獨國

英語

バチロル、オブ、アーツ・マストル、オブ、
アーツ(英國オックスフォード大學)
ジョージ・サマレット、カレール 英
George Sausmarez Carey 國

助教授

圖書

福井誠一 宮城

講師

圖書(自在畫)

小圃立二 宮城

體操

陸軍歩兵中佐

太田喜伊一 山形

圖書

東北帝國大學講師

森相時 長野

數學

東北帝國大學講師

北島美雄 福井

體操

陸軍歩兵大尉

鈴木留三郎 岩手

國語(作文)

宮城縣第二高等女學校教授

文學士

倉山榮 高知

獨語

私立東北學院教授

菅尾兼太郎 山口

自然科學(物理)

東北帝國大學教授

理學士

山田光雄 北海道

英語

名譽教授

栗野健次郎 岩手

數學

理學士

近江幸治 宮城

化學

理學士

塚本又三郎 大阪

物理實驗

六波羅 奎太郎 宮城

體操

陸軍歩兵特務曹長

木村一吉 宮城

體操

陸軍歩兵曹長

荻野勘治 新潟

學校醫

醫學士 曾矢精太郎 山形

囑託教員

劍道

宮澤久次 千葉

同

櫻田富士麿 宮城

柔道

久我均光 北海道

弓道

阿波研造 宮城

書記

遠藤榮吉 宮城

松坂酉七郎 宮城

熊谷榮之助 宮城

佐藤喜三郎 宮城

吉田晋二 宮城

雇

庵原良輔 宮城

陸軍砲兵大佐

堀江一 宮城

森梧六 福島

片倉已之吉 宮城

坂井秀吉 福島

武者健二 宮城

山田武 宮城

青木利器男 宮城

迫利右衛門 宮城

青柳末光 福島

菅野信治 宮城

千葉五郎 宮城

阿部亮一 秋田

化學教室詰助手

同

物理學教室詰助手

同

鑛物及地質教室詰助手

植物及動物教室詰助手

同

佐藤清作 宮城

教務部

教頭

教授 玉蟲一郎

修身科主任

教授 白井成允

國語及漢文科主任

教授 岡澤鉦治

英語科主任

教授 土井林吉

獨語科主任

教授 小池堅治

歷史及地理科主任

教授 阿刀田令造

數學科主任

教授 大石喬一

物理科主任

教授 庄司彦六

哲學科主任

教授 村木維夫

法制及經濟科主任

教授 楠井隆三

化學科主任

教授 加納清三

植物及動物科主任

教授 長倉快一郎

礦物及地質科主任

教授 吉井正敏

圖書科主任

教授 神門久太郎

體操科主任

附屬將校 平野博成

教務係主任

書記 松坂酉七郎

教務係

書記 吉田晉二

級長

文科第三年一ノ組

教授 阿刀田令造

同 同 二ノ組

教授 白井成允

理科第三年一ノ組

教授 庄司彦六

同 同 二ノ組

教授 市原哲治

理科第三年三ノ組	教授	加納清三
同 同 四ノ組	教授	大石喬一
同 同 五ノ組	教授	萩庭三壽
文科第二年一ノ組	教授	土井林吉
同 同 二ノ組	教授	濱田廉
理科第二年一ノ組	教授	長倉快一郎
同 同 二ノ組	教授	佐藤充
同 同 三ノ組	教授	鈴木紀一郎
同 同 四ノ組	教授	栗林宇一
同 同 五ノ組	教授	栗田豊
文科第一年一ノ組	教授	佐沼秀壽
同 同 二ノ組	教授	小池堅治

理科第一年一ノ組	教授	神門久太郎
同 同 二ノ組	教授	志賀悌輔
同 同 三ノ組	教授	高木尙介
同 同 四ノ組	教授	田中保房
同 同 五ノ組	教授	村木維夫

庶務部

幹事

庶務係主任	官報報告主任	教授	阿刀田令造
庶務係		書記	熊谷榮之助
同		雇	片倉已之吉
同		雇	武者健二

會計部

會計係主任	物品會計官吏	書記	遠藤榮吉
-------	--------	----	------

會計係	書記	佐藤喜三郎
同	雇	庵原良輔
同	雇	堀江一
同 兼務	雇	森 梧 六
圖書部	教授	村木維夫
圖書長	雇	森 梧 六
圖書係主任心得	雇	坂井秀吉
圖書係	雇	千葉五郎
同 兼務	雇	山田武
同	教授	鈴木紀一郎
生徒監		
生徒監督部		

同	教授	田中保房
醫務担任	學校醫	曾矢精太郎
生徒監督係主任	講師	木村一吉
生徒監督係	講師	荻野勘治
同 兼務	書記	松坂西七郎

第七章 生徒

(大正十四年六月十四日調)

高等科

文科三年一之組

四十人

(出身中學) (氏名) (原籍)

福島安積	青山進	福島
東京麻布	森克己	長野
山形鶴岡	大井俊介	山形
群馬前橋	星野力	群馬
仙臺東北	相澤嘉造	宮城
長野諏訪	小口彦七	長野
群馬高崎	信田俊夫	群馬
福島	高橋信將	福島

(出身中學) (氏名) (原籍)

東京第四	青木織衛	東京
仙臺第一	沼倉俊夫	宮城
山形米澤	青柳尙知	山形
東京第四	中村重一	宮城
關東旅順	横田武夫	三重
仙臺第二	奥山貞二郎	宮城
山形米澤	小越逸朗	山形
富山魚津	菅野貞雄	富山
仙臺第一	庄子宗光	宮城
仙臺第二	小出孝三	宮城
青森	中村正明	徳島
東京第四	會木克彦	鹿兒島
青島	尾崎久市	愛媛
仙臺第一	伊澤平和	宮城
北海道釧路	前田正夫	北海道
福島磐城	高野信	福島
群馬太田	川村二郎	群馬
岩手一關	安齋省一	岩手
静岡沼津	島野武	宮城
東京一高豫科	楊誠齋	支那

仙臺第一	淺野鐵郎	宮城
山形庄内	邊見宗助	山形
群馬太田	町田貞夫	群馬
山形新庄	鹽田道夫	秋田
山形鶴岡	石川軍吉	山形
秋田	岡田勝長	福島
第一鹿兒島	川上三郎	鹿兒島
新潟長岡	内藤久一郎	新潟
埼玉熊谷	尾高格三	埼玉
仙臺第二	都倉儀郎	神奈川
東京第一	清水俊二	茨城
東京一高豫科	鄧靄支那	支那

文科三年二之組

三十四人

陸士豫科	阿部常就	宮城	岩手遠野	菊池篁三郎	岩手
東京芝	久永正勝	宮城	山梨甲府	朝山綱之助	長崎
北海道小樽	名畑茂留	北海道	宮城古川	佐々木忠之助	宮城
愛知明倫	殿木英二	愛知	仙臺第二	佐藤親祿	宮城
北海道旭川	折居辰治郎	岩手	仙臺東北學院	工藤進	山形
静岡沼津	松本烈	神奈川	山梨甲府	右京喜逸	長崎
仙臺第一	今野正彌	東京	第二橫濱	内海靜治男	宮城
東京開成	大村英之助	福井	仙臺第一	白石廣次	宮城
仙臺第二	須藤襄	秋田	岩手盛岡	大川修造	岩手
東京第一	大竹平四郎	東京	仙臺第一	工藤義男	山形
仙臺第一	石田芳穂	岡山	仙臺第二	大鹽規矩男	栃木

理科三年一之組

四十人

山形鶴岡	相馬昇	山形	仙臺第二	佐藤靜雄	宮城
福島會津	宗像平夫	福島	和歌山田邊	野久保秀三	和歌山
仙臺第一	飯淵敬太郎	宮城	東京第四	林茂	東京
東京京北	金野國雄	岩手	仙臺第二	本郷忠二	宮城
仙臺第一	久保健治	宮城	京都第一	池田龍三	京都
仙臺第一	佐藤啓之助	宮城	福岡修献館	荻野政朋	福岡
青森	横内忠徹	青森	栃木	福富和三郎	栃木
山形米澤	針生武巳	山形	仙臺第一	岩崎英勇	宮城
東京第四	仙石捷二	東京	福島相馬	伊藤貞	宮城
東京第一	田中楠夫	山口	宮城角田	桑島廣德	宮城
東京第一	吉原安太郎	東京	仙臺第一	松川金七	宮城

仙臺第二	鈴木芳郎	宮城	仙臺第一	龜田	孜	宮城
第二橫濱	木目田知	東京	東京順天	進藤幸三郎	東京	
東京海城	佐藤清見	福島	仙臺東北學院	櫻井五郎	宮城	
仙臺第二	六戸國雄	岩手	岩手盛岡	山本芳男	岩手	
仙臺第一	鎌田稔	宮城	仙臺第一	武者光	宮城	
仙臺第二	井上剛	京都	愛知岡崎	持館俊雄	福島	
東京成城	高洲正夫	東京	青森八戸	阿部雅之介	青森	
長野諏訪	藤澤健三	長野	東京第五	小島守	愛知	
東京立教	飯吉精一	東京	東京芝	木村茂	東京	
大分中津	小西參	大分	岩手盛岡	鳥崎雄	岩手	
第一橫濱	岩永利夫	長崎	仙臺東北學院	東海林由吉	宮城	
東京京華	伊奈廣夫	東京	埼玉熊谷	倉上貞治	埼玉	

第一橫濱	八木彌助	神奈川	仙臺第二	水野龍夫	東京
仙臺第一	一見龍一	三重	群馬太田	秋草勳	群馬
一高豫科	聊芳	支那	第一橫濱	出口一重	神奈川
關東旅順	江連國威	東京	群馬前橋	尾高俊二	群馬
東京錦城	熊田武	福島	高知第三	宮地輝威	高知
仙臺第一	莊司薰	宮城	仙臺第一	鳥海達郎	宮城
仙臺第一	宮澤實男	宮城	福島相馬	武藤甲二	福島
仙臺第一	阿部巖	宮城	東京京北	佐奈田繁雄	廣島
東京第五	三好道丸	新潟	岩手遠野	川村信一	岩手
秋田	中村武雄	福島	仙臺第二	菊地新吉	宮城
福島安積	熊田孝和	福島	東京芝	横尾遼治	宮城

理科三年二之組

三十六人

福島	長谷部四郎	福島	阿部茂美	福島
東京高輪	相澤洲二	東京	白井清夫	長野
仙臺東北學院	村井敏男	岩手	佐藤鐵治郎	山形
千葉成田	平山 諱	千葉	小平俊雄	長野
千葉	石井千尋	栃木	齋藤勝次	宮城
岩手盛岡	高橋愛一	岩手	仙臺東北學院 佐々木四郎	宮城
第一神戸	森川光郎	兵庫	仙臺東北學院 中川元	宮城
東京第三	永井勝滿呂	京都	東京青山學院 神太郎	青森
群馬太田	福田俊郎	群馬	東京立教 櫻岡忠雄	福島
埼玉熊谷	腰塚寛三	埼玉	仙臺東北 熊谷順	宮城
仙臺第二	阿部達馬	宮城	理科三年三之組 三十四人	
			秋田横手 澤口常助	秋田

千葉成東	海保保	千葉	吉田圭止	福島
仙臺第一	小野常道	東京	前川庄三郎	福島
三重津	櫻井三郎	三重	杉山三郎	東京
秋田	早川寛齋	秋田	畠中亮一	宮城
仙臺東北學院	伊藤卓藏	岩手	札幌第一 清原潔	北海道
仙臺第二	本田太郎	宮城	宮城角田 今野悦郎	宮城
宮城古川	角田秀夫	宮城	山形米澤 高野廣	山形
第一横濱	加藤嘉太郎	神奈川	第一横濱 志村計介	神奈川
東京日本大學	田名部繁	東京	仙臺第一 平塚軍平	宮城
仙臺第二	佐々木盛幸	宮城	仙臺第一 玉城孝	宮城
東京第一	平山砂男	東京	埼玉熊谷 鈴木四郎	埼玉
東京高師附屬	川島健吉	栃木	福井 坂元淳	福井

東京錦城	田淵俠介	兵庫	仙臺第一	松田三郎	宮城
東京第四	青山一雄	京都	一高豫科	楊毅	支那
北海道小樽	見谷勇	北海道	東京高師附屬	中島資忠	静岡
東京芝	佐藤保雄	宮城	仙臺東北學院	高山幸二郎	宮城
理科三年四之組 三十八人					
北海道室蘭	米川勝哉	北海道	新潟三條	田中時雄	新潟
仙臺第二	門田衛	宮城	仙臺第一	荒井光治	宮城
北海道函館	石館直三	青森	長野諏訪	清水利貞	長野
福井小濱	村上精次	福井	東京青山學院	佐伯孝	東京
東京第一	高井莊次	福井	仙臺第一	柘植重夫	山形
東京芝	西方清	新潟	神奈川厚木	森田義男	神奈川
仙臺第一	青柳了	茨城	仙臺第二	渡邊康雄	宮城

東京第一	山村道雄	大分	獨逸協會	片桐猛朗	長野
東京高師附屬	横手英一	東京	東京青山學院	南部寛人	山口
東京錦城	中村惠	東京	福島相馬	吉田序孝	福島
仙臺第一	志賀信一	宮城	仙臺第一	田島吉郎	群馬
札幌第一	黒田辰一郎	東京	千葉成東	増田秋男	千葉
栃木宇都宮	高橋武平	栃木	福島磐城	齋藤武	福島
東京第一	古澤三郎	静岡	仙臺第二	梨澤忠美	宮城
獨逸協會	長谷川盈	神奈川	千葉成東	伊藤一雄	千葉
獨逸協會	田爪忠良	東京	仙臺第二	北川光二郎	宮城
北海道函館	吉川瀏	岐阜	岩手盛岡	佐藤辰雄	岩手
滋賀膳所	眞岡親信	滋賀	東京正則	有泉三郎	山梨
札幌第二	喜多村潔	北海道	廣島	加藤經次	和歌山

理科三年五之組

三十九人

東京日本濟美	福島榮之助	東京	朝鮮昌信	李鎮文	朝鮮
福島石川	矢部保勝	福島	仙臺第一	小松業一	秋田
朝鮮京城	佐々木周一	宮城	山形新庄	佐々龍雄	山形
神奈川小田原	石原惠三	神奈川	山梨甲府	望月章次	山梨
仙臺第二	清野幹夫	宮城	茨城龍崎	池田恒男	茨城
仙臺第一	岡廣	宮城	福島相馬	橋本節治	福島
福島安積	瀧田左武朝	福島	長野上田	土屋暹	長野
廣島高師附屬	中尾忠雄	山口	東京高輪	西條慶四郎	宮城
山形米澤	小林賑彌	山形	金澤第二	宮田暎一	石川
青森	村上克巳	青森	山形鶴岡	伊關辰次	山形
新潟三條	石田哲夫	新潟	仙臺第一	伊藤四郎	宮城

文科二年一之組

四十三人

宮城角田	豐島勝雄	宮城	千葉佐倉	鈴木博	千葉
青森	飯田研三	青森	青森八戸	宇津宮順三	青森
大阪今宮	森正記	宮城	仙臺第一	齋藤由藏	宮城
第一横濱	足立平	神奈川	神奈川厚木	岡本偉介	神奈川
宇都宮	柴田良次	栃木	栃木佐野	永井泰	栃木
福島磐城	西山義意	福島	茨城水戸	畑捷	埼玉
仙臺第一	太田新一	宮城	仙臺東北	木村正義	宮城
東京第五	小島理一	長野	秋田	新妻浩	秋田
東京成城	土屋忠衛	山梨			
秋田本荘	佐藤紀巳	秋田	北海道函館	森真藏	北海道
第一神戸	小川忠惠	宮城	群馬澁川	角田守平	群馬

福島安積	谷崎藤吉	宮城白石	菅野新一	宮城
長野諫訪	功力史朗	東京日本大學	菅野保之	宮城
仙臺第二	岡原昌男	群馬太田	笠井一男	徳島
北海道小樽	菅信雄	北海道旭川	山崎信義	福岡
福島安積	櫻井廣次	仙臺第二	井上孝夫	神奈川
山形酒田	加藤泰三	福島相馬	紺野雄二郎	福島
山形鶴岡	野澤正朋	仙臺東北學院	村田秀雄	青森
北海道小樽	宮澤純雄	福島	土肥武雄	福島
仙臺第一	佐藤榮	東京麻布	梅田薫	福島
仙臺第一	横山勝二郎	仙臺第一	宮本武之助	宮城
仙臺第二	阿部三郎	仙臺第二	菅野徳樹	宮城
北海道旭川	赤野敬止	長野諫訪	小川正夫	長野

新潟	木村逸郎	新潟	石井熊彦	福島
東京開城	村口昌三郎	東京	田中悌六	埼玉
仙臺第一	横田善司	宮城	石田常義	宮城
東京赤坂	山田清	栃木	氏家盛	宮城
仙臺第一	千葉不二男	岩手	高野瀏	宮城
鳥取第一	湯谷喜八郎	鳥取	宋毅	支那
東京青山學院	鶴飼信成	東京	片平正	宮城
東京第一	坂本隆成	福岡		
文科二年二之組				
四十三人				
仙臺第一	佐々木哲藏	宮城	大森英太郎	宮城
福島	小檜山隆一	福島	白居直道	栃木
仙臺第二	松田一隆	北海道	山田正男	宮城

仙臺第二	小野寺勇吉	宮城	仙臺第一	綿貫徳四郎	宮城
大阪北野	宮川健	香川	仙臺第一	小野光四郎	宮城
仙臺第一	古内廣雄	宮城	岩手遠野	永井一三	岩手
仙臺第一	森浩	東京	福島喜多方	猪俣幸一	福島
仙臺第二	佐々木英雄	宮城	栃木佐野	林次郎	栃木
福島	古關吉雄	福島	東京高師附屬	今村進一	東京
仙臺第一	後藤紀一	宮城	青森八戸	木村三八男	青森
仙臺第一	賀川英夫	宮城	福岡修猷館	鹿島芳	兵庫
仙臺第一	爲田大五郎	岩手	東京高師附屬	織田定信	愛知
北海	蛭名忠雄	北海道	秋田	本郷太郎	秋田
東京第一	小橋東男	熊本	東京豊山	渡邊宗治郎	福島
東京海城	武藤俊武	東京	仙臺第一	本郷七郎	宮城

青森八戸	松村慶吉	青森	福島	今村文英	福島
仙臺第一	莊司定雄	宮城	東京開城	山下浩三郎	神奈川
山形新庄	村上虎雄	宮城	東京開城	砂原宣雄	東京
仙臺第二	早坂文雄	宮城	福島安積	西野壯夫	福島
東京開成	岸義一	東京	宮城白石	矢内襄	宮城
栃木下野	阿久津關一郎	栃木	山形新庄	大塚由之	山形
仙臺第一	小川亮	北海道			
理科二年一之組					
四十三人					
福島	吉田五郎	福島	札幌第一	木原勝一	北海道
愛知第一	魚住種治	愛知	茨城龍崎	高島義雄	茨城
埼玉熊谷	青木徳太郎	埼玉	東京第四	渡部巖	福島
北海道函館	木村欣三	北海道	仙臺第一	沼田善雄	宮城

仙臺第一	林 信 夫	德島	秋 田	石川 秀 夫	秋 田
仙臺第二	岡 原 國 男	秋 田	長野野澤	柳 澤 延 房	長 野
東京高師附屬	太田 英之助	東 京	宮城築館	飯 田 次 雄	宮 城
東京開成	山 田 信 夫	東 京	福 島	桐 澤 長 德	宮 城
山梨日川	横 田 季 夫	山 梨	山形鶴岡	長 南 健 也	山 形
東京京北	香 月 利 夫	東 京	仙臺第二	岡 村 美 彦	山 口
仙臺第二	狩 野 一 郎	宮 城	仙臺東北學院	鈴 木 重 隆	宮 城
東京豊山	中 館 第 五 郎	北 海 道	東京麻布	堀 清 彦	東 京
仙臺東北學院	磯 谷 貞 治	愛 知	富 山	山 野 直	東 京
岩手一關	佐 藤 正 名	岩 手	仙臺第一	尾 形 浩	宮 城
鳥根松江	横 山 蕙 六	鳥 根	仙臺東北學院	岩 澤 武 雄	東 京
第一横濱	高 村 勝	東 京	山形新庄	毛 呂 正 威	山 形

福島磐城	上 澤 軍 次	福 島	宮城白石	須 藤 光 一	宮 城
福島喜多方	岡 野 里 治	福 島	仙臺第一	高 橋 正	宮 城
東京第四	瀧 澤 玄 吾	長 野	東京錦城	藤 枝 正 造	北 海 道
一高豫科	李 肅 憑	支 那	東京高師附屬	須 藤 明 之 助	東 京
仙臺第一	鈴 木 喜 内	宮 城	長野諏訪	丸 茂 一 平	長 野
東京開城	森 脇 菱	東 京			
理科二年二之組 四十二人					
仙臺第一	石 川 武 二	宮 城	東京高千穂	安 積 宏	兵 庫
福 島	村 岡 勇	福 島	福島相馬	原 田 正	福 島
北海道小樽	遠 藤 幸 吉	北 海 道	岩手福岡	榊 田 龜 次 郎	岩 手
岩手盛岡	青 木 平 八	岩 手	福島安積	川 口 政 祐	福 島
福島相馬	林 政 美	福 島	仙臺東北學院	岡 好 良	宮 城